

23. Deutsch- Redewettbewerb für Oberschülerinnen und Oberschüler

第23回 獨協大学 全国高校生 ドイツ語スピーチコンテスト

<開催日> 2021年11月14日(日)

<開催方法> Zoomを用いた
オンラインでの開催
(ライブ配信型)

※新型コロナウイルス感染症の
全国的なまん延状況を受け、
会場開催からオンライン開催に変更しました。

<主催> 獨協大学外国語学部



獨協大学外国語学部ドイツ語学科の紹介

「ドッキョウのドは、ドイツのド」。獨協大学の前身は、今から138年前、1883年に創設された「獨逸学協会学校」。ドイツ語学科は、いわば獨協大学の核となる学科です。1 学年あたりの入学定員 120 名、教員 50 名以上を擁し、ドイツ語学科としては、日本国内最大規模でもあります。

実践的なドイツ語運用能力の習得を目指すとともに、言語・文学・思想・芸術・歴史・政治・経済などさまざまな側面から、ドイツ語圏の文化や社会について学びます。もちろん、環境問題、EU 統合などのアクチュアルなテーマについても講義やゼミで扱います。

「ドイツのことは知らない…」「ドイツ語なんてできない…」そんな人も、安心してください。1 年次には「ドイツ語圏入門」という講義を通し、ドイツ語圏に関する基礎的な事柄を学びます。

2 年次には「基礎演習」という科目があり、学生が主体となって研究・発表を行います。

1 年次ではドイツ語の授業が週5回（各 100 分）あり、そのうち 2 回はネイティブスピーカーの先生のもとで実践的なドイツ語を学びます。さらに実践力を高められるように、ドイツでの語学研修はもとより、ドイツでのインターンシップ（企業での研修）も実施しています。獨協大学で初めてドイツ語を学び始め、2 年で独検（ドイツ語技能検定試験）の準 1 級レベルに合格したり、卒業時に通訳ガイド試験に合格したりする学生もいます。

授業のほかにも、ネイティブスピーカーの先生と気軽に話せる「チャットルーム」や、大学院生による「ドイツ語何でも相談」、またドイツ語の資格を取るための講座や模擬試験などもあります。さらに、雑誌やニュースでドイツ語に浸れる Deutsche Ecke という部屋では留学生との交流ができ、ドイツ語学習の環境が整っています。

3 年次からは、本格的な専門の授業が始まります。ドイツ語圏の文化や社会について、これだけ多様な視点から学べるのは獨協大学だけです！問題が与えられるのを待っている受け身の学生ではなく、自分で問題を見つけて、多角的な視野から解決の糸口を探る、そんな積極的な学生を育てたいと思っています。

ぜひ一緒に、獨協大学外国語学部ドイツ語学科で学びましょう！

Wir freuen uns, Sie hier an der Dokkyo Universität begrüßen zu können!



2021 年度 第 23 回獨協大学全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト
本選プログラム（予定）

新型コロナウイルス感染症の全国的なまん延状況を受け、参加者および関係者の皆様の健康と安全面を考慮した結果、対面開催からオンライン開催に変更しました。

12:00	開会 出場者紹介 主催者挨拶 獨協大学外国語学部長 渡部 重美 審査員紹介
12:15	スピーチ発表 第1部 朗読部門 第2部 プレゼンテーション部門 第3部 フリースピーチ部門
15:10	アトラクション 「日本人なのにドイツ語ラップ？ ドイツ育ちの日本人ラッパーBlumioのヒップホップSHOW」 ＜出演者＞BLUMIO（ブルーミオ）
15:55	審査結果発表・表彰式 審査講評
16:40	閉会 記念撮影

※プログラムは予定です。変更になる場合があります。

※時間は目安です。状況により前後いたします。

※レコーディングおよび画面のスクリーンショットを行いますので、
予めご了承ください。

「ドイツ語スピーチコンテスト」2021 に寄せて

獨協大学外国語学部長 渡部 重美

「第23回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト」を開催するにあたり、主催者である獨協大学外国語学部を代表してご挨拶申し上げます。

2年ぶりの開催となる今回のコンテストには、北海道から沖縄まで36の高校から、延べ206名のご応募がありました。新型コロナウイルスによる感染症拡大の影響で普段の高校生活もままならないなか、このコンテストのために一生懸命準備をして参加して下さったみなさんに、まずは心より敬意を表したいと思います。また、みなさんを支えて下さったご家族、ご指導下さった先生方、ご後援いただきました関係諸機関・諸団体のみな様にも深く感謝申し上げます。

今回のコンテストでは、第1部で参加者自身が暗唱テキストを選べるようにする、第2部は対話形式を廃止してプレゼンテーション部門とする、第3部ではこれまでのフリースピーチ形式を踏襲しながら「社会的なテーマを扱う」という条件を加えるなど、いろいろと工夫を凝らしてみました。予選審査にあたった教員からは、3つの部門いずれにおいても、参加なさったみなさんのレベルは非常に高いものであったとかがっております。

ところで、今回のコンテスト本選はオンライン開催となります。本学キャンパスに来校しての参加を楽しみにして下さっていたみなさんには大変申し訳ありませんが、感染症拡大への不安が払拭できない状況下での判断ですので、ご理解いただければ幸いです。対面の場合とは異なりさまざまな制約があり、また、このスピーコン開催の重要な目的の1つである、ドイツ語を学ぶみなさん同士が直接交流し親睦を深めていただくための機会もご用意できませんが、スタッフ一同、できる限り臨場感溢れるコンテストになるよう努力するつもりです。どうか、これまでの練習の成果を存分に発揮してください。

オンラインではありますが、このコンテストが、ドイツ語に興味・関心を持つみなさんにとって素敵な、思い出に残るような場となることを願っております。

獨協大学外国語学部ドイツ語学科長 青山 愛香

「第23回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト」にご参加下さいまして、ありがとうございます。コロナ禍の厳しい状況の中で本選に進まれたみなさん、ご出場おめでとうございます！またご多忙の中、指導に貴重な時間を割いて下さった先生方に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。残念ながら今回は本選出場が叶わなかったみなさんも、今回の応募を機にさらにドイツ語に興味を持って頂ければ、これ以上嬉しいことはありません。

私たちを取り巻く世界は2020年を境に大きく変わりました。対面で交流する機会が失われ、学校生活も多くの制限を受けたことでしょう。昨年はスピーチコンテストも開催を断念致しましたが、今年は初めての試みとしてオンラインで開催致します。本選出場の皆さんには、オンラインという新しい舞台で思う存分楽しみながら、日頃の成果を披露して頂きたいと思います。

今回のアトラクションはラッパーのBLUMIOさんをゲストにお迎えします。日独両言語を駆使して活躍するBLUMIOさんは、二つの文化の違いをラップのリズムに乗せて軽妙に、そして時に鋭く描き出します。みなさんもドイツ語という新しい言葉を武器に、未来に向けて大きく世界を広げて行って下さい。

最後になりましたが、今回の大会開催にあたりご協力を頂きましたゲーテ・インスティトゥート、後援企業の皆様、そして様々な形でご支援ご協力下さいました関係機関の方々に心より感謝申し上げます。

<審査員紹介>

ドイツ連邦共和国大使館	Judith Hollis 様
ゲーテ・インスティトゥート東京 語学部長/所長代理	Oliver Phan-Mueller 様
高等学校ドイツ語教育研究会 会長	能登 慶和 様
獨協大学外国語学部ドイツ語学科	Katrin NIEWALDA 専任講師
獨協大学外国語学部ドイツ語学科長 第23回ドイツ語スピーチコンテスト審査員長	青山 愛香 教授

第23回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト応募数

第1部：175名 第2部：20名 第3部：11名 総計：206名（36校）

都道府県	高校名	第1～3部 応募数	都道府県	高校名	第1～3部 応募数
北海道	札幌静修高等学校	12	神奈川県	横浜国際高等学校	21
岩手県	花巻南高等学校	6		慶應義塾湘南藤沢高等部	31
	不来方高等学校	7		湘南学園高等学校	1
埼玉県	伊奈学園総合高等学校	31		星槎学園高等部北斗校	1
	岩槻高等学校	3		捜真女学校高等学部	1
	草加南高等学校	1		相模原弥栄高等学校	2
	不動岡高等学校	5		千葉県	国府台女子学院高等部
	和光国際高等学校	1	芝浦工業大学柏高等学校		1
	蕨高等学校	1	山梨県	山梨英和高等学校	14
	獨協埼玉高等学校	41	静岡県	不二聖心女子学院高等学校	1
東京都	学習院女子高等科	3	愛知県	豊田北高等学校	1
	三田国際学園高等学校	1	奈良県	奈良学園高等学校	1
	渋谷教育学園渋谷高等学校	1	大阪府	大阪教育大学附属高等学校池田校舎	1
	早稲田大学高等学院	1		長野高等学校	2
	東京学芸大学附属国際中等教育学校	1	広島県	呉工業高等専門学校	1
	東京大学教育学部附属中等教育学校	1	熊本県	水俣高等学校	1
	北園高等学校	5	沖縄県	N高等学校	1
	國學院大学久我山高等学校	1			
	獨協高等学校	2			

第23回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト 本選出場者選抜一覧

第1部(8名)

登壇順	高校名			学年	氏名	ローマ字
1	東京都	私立	学習院女子高等科	2	堀内 万菜	Horiuchi Mana
2	神奈川県	私立	捜真女学校高等学部	3	大塚 彩花	Otsuka Ayaka
3	埼玉県	県立	草加南高等学校	3	小野寺 夏穂	Onodera Natsuho
	神奈川県	県立	相模原弥栄高等学校	3	大山 美羽	Ohyama Mihane
4	埼玉県	私立	獨協埼玉高等学校	3	岡田 典子	Okada Noriko
5	埼玉県	県立	伊奈学園総合高等学校	2	湯淺 菜々美	Yuasa Nanami
6	神奈川県	私立	慶應義塾湘南藤沢高等部	3	土岡 佑輔	Tsuchioka Yusuke
7	奈良県	私立	奈良学園高等学校	3	中村 知紗希	Nakamura Chisaki

第2部(8名)

登壇順	高校名			学年	氏名	ローマ字
1	神奈川県	私立	湘南学園高等学校	2	星野 圭音	Hoshino Tamane
2	神奈川県	県立	横浜国際高等学校	2	河島 彩織	Kawashima Saori
3	岩手県	県立	不来方高等学校	3	嶋田 眞嘉	Shimada Mahiro
4	埼玉県	県立	伊奈学園総合高等学校	3	荒川 晃大	Arakawa Kodai
5	埼玉県	県立	伊奈学園総合高等学校	3	大村 風歌	Oomura Fuyuka
6	埼玉県	県立	伊奈学園総合高等学校	3	新井 碧姫	Arai Tamaki
7	埼玉県	県立	伊奈学園総合高等学校	3	関根 ジン	Sekine Jin
8	東京都	私立	早稲田大学高等学院	3	黒澤 元人	Kurosawa Haruto

第3部(5名)

登壇順	高校名			学年	氏名	ローマ字
1	東京都	国立	東京学芸大学附属国際中等教育学校	3	フラツチャー 杏奈	Flatscher Anna
2	静岡県	私立	不二聖心女子学院高等学校	3	西 洸	Nishi Honoka
3	東京都	私立	渋谷教育学園渋谷高等学校	3	高原 良佳	Takahara Haruka
4	神奈川県	県立	横浜国際高等学校	3	河野 結	Kono Yui
5	埼玉県	私立	獨協埼玉高等学校	2	三ッ橋 慧	Mitsuhashi Satoshi

◆第23回獨協大学全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト 予選講評◆

第23回獨協大学全国高校生ドイツ語スピーチコンテストにたくさんのご応募をいただき、まことにありがとうございました。今回の応募者数は、第1部175名、第2部20名、第3部11名、延べ206名となりました。

去年は新型コロナウイルスの感染拡大により、スピーチコンテストを開催できなかったこともあり、今回このように多数の応募があったことをたいへん嬉しく思います。いまなお生活がさまざまな制約を受ける中、今回のスピーチコンテストはドイツ語を学ぶ高校生にとって、授業以外の時間にドイツ語を練習する貴重な機会となることと思います。

第23回獨協大学全国高校生ドイツ語スピーチコンテストには、さまざまな工夫を凝らしております。たとえば第1部の朗読部門では、三種のテキストを選択肢として提供したうえで、さらにテキストを応募者がみずから自由に選ぶことも可能としました。今回は感染予防の観点から、これまで第2部として実施していた対話部門を休止し、プレゼンテーション部門を新設しました。日常生活に密着したトピックについて、パワーポイントなどの視覚的なツールを活用しながら発表するものです。プレゼンテーションという形式は、教育やビジネスの場において重要な役割を果たしておりますが、すでに日常的な会話ができるレベルに達している高校生にふさわしい表現形態としてかねてより要望が多かったものです。第3部のフリースピーチ部門は、これまでの実施形態を基本的には踏襲しつつも、「社会的なテーマを扱う」という条件を新たに加えました。応募者数が多かったばかりでなく、特に第2部と第3部の応募作品の質が一貫して高かったのは、こうした変更点を考慮するととりわけ喜ばしいことです。

第1部においては、応募者がみずから選んだテキストを朗読する際に、その文学作品に対する各自の解釈が示されることとなりますが、いくつかの作品については、もう少し準備と熱意があればもっと良い結果が得られたのではないかと印象を受けたことは否めません。第2部のプレゼンテーション部門では、今回は「私の学校」というテーマを設定しましたが、応募作品は、同じ学校出身者であってもそれぞれ異なる視点からアプローチしており、興味深いものでした。第3部のフリースピーチ部門においては、現代の重要な社会問題に関連する幅広いトピックが出揃いました。

このようにバリエーションに富む作品のうちから、技術力や独自性が際立ち、ステージでの発表に最も期待を寄せることができる作品を選び出すのは、われわれ審査員にとって非常に難しい作業でした。そのため、今年は想定していたよりも多くの作品を本選に選出することとなりました。

残念ながら、優秀な作品であっても選考で落とさざるを得ない場合が生じてしまうのがこうしたコンペティションの常です。われわれ審査員は、すべての応募者の皆さんの勇気を祝福し、その努力に大きな敬意を表します。この講評が皆さんのさらなる成長に寄与することができれば幸いです。また、皆さんがこれからも楽しくドイツ語を学ばれることを願っております。

※残念ながら、録音状態が万全でないものが散見されました。今後ご応募の際には、雑音の有無、録音レベルなどについて十分ご確認くださいようお願い申し上げます。

<第1部（朗読部門）>

第1部の課題テキストは、詩としてだけでなく歌としても広く知られるハインリヒ・ハイネ（1797-1856）の「ローレライ」、エーリヒ・フリート（1921-1988）の詩「問いと答え」、フランツ・カフカ（1883-1924）の寓話「掟の前で」（抜粋）の三種でした。応募者自身が選んだテキストには、村上春樹（1949-）の「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」、リヒャルト・ジュネ（1823-1895）の「春の声」などがありました。

「ローレライ」はかなり短い行とシンプルな短文で構成され、一見簡単そうに見えます。各節の一行目と三行目、二行目と四行目が韻を踏んでいます。二行目のリズムは全体を通して似通っていますが、それぞれに小さなずれがあります。穏やかな流れの中で、細かい変化をつけながらこのリズムを拾い、同時に単調に聞こえないようにするのは容易なことではありません。応募者の中にはこれをうまく達成している人もありました。効果的な方法の一つは、各行の中で最も重要な意味を担う言葉に集中することです。こうした単語を、いわば「その単語に向かって」読むことにより、はっきりと強調することが大切です。各行の中でどの単語が最も重要であるかについては解釈の余地がありますが、行の最初や最後の単語であるとは限りません。応募者のうちには、この点も巧みにこなしている人がありました。自分なりの解釈を表現するための工夫としては他に、導入から本篇の始まりにかけての切り替え部分の表現、„Ich glaube“ という独特な挿入文の読み方、„wildem Weh“ や „hinauf in die Höh“ のように共通の語頭が繰り返される部分の表現などが考えられます。最後に、それぞれの行が表すものと結びついた感情を具体的に思い浮かべることが良い方法で、感情表現を洗練させるのに役立ちます。

言語的には「問いと答え」という詩の方が格段にシンプルです。大半の語彙や表現は多くの応募者にとって、ドイツ語学習の過程ですでに馴染み深いものだったに違いありません。それが哲学的な対話のような詩のうちに現れるのですから面白いですね。問いの部分は、前半では間接疑問文の形、後半では直接疑問文の形で表現されているのですが、こうした問いと答えの交互性をうまく表現することが、この詩を上手に朗読するためのポイントです。多くの応募者がこの課題に成功していました。この詩は自由詩の形式で書かれていますので、リズムは自分で作ることができます。問いと答えの間の転換だけでなく、各行の重みを強調するためにも、間を十分に取ることが大切です。そしてここでも、一行のうちで最も重要な意味を担う単語に集中するという戦略が有効です。この点に注意を払っていれば、解釈の説得力がさらに増していただろうと思える応募者が多くいました。

謎めいた寓話「掟の前で」は、難しい語彙や、主節と従属節からなる長い文の構造が多く見られ、言語的には三つのテキストの中で最も難解です。ここでも、重要な単語に注目することで、長い文の中で迷子にならずに済みます。ちなみに長い文を練習するときのコツは、右から左へゆっくりと積み上げていくことです。一文の最後にある単語群を最初に練習し、そこにその前の単語群を加えていくようにします。まず„in das Gesetz“、次に „um Eintritt in das Gesetz“、そして „und bittet um Eintritt in das Gesetz“ といった具合です。ただしこのカフカのテキストには、一人の語り手に加えて二人の登場人物がいるため、演技力を示す絶好の機会ともなります。三役の声を使い分け、その人物の性格や雰囲気話し方で表現すれば、一部の応募者が試みていたように、心に響く演技ができます。

言うまでもなく、個々の音のドイツ語での発音を事前に知っておくのも大切なことです。その上ではじめて、テキスト全体を組み立てることができるのです。すべての応募者にお送りする「ジャッジシート」には、各自が取り組むべき個々の音についての詳細なフィードバックが記載されています。先生や教科書の助けを借りるだけでなく、インターネットでも調べてみましょう。専門的なウェブサイト (<https://soundsofspeech.uiowa.edu/german> など) のほか、Youtubeにもさまざまなビデオが上がっていますが(非専門家が制作した、必ずしもお勧めできないものもあります)、獨協大学でも日本の学生のために発音練習用のウェブサイト (<http://phonetik.sakura.ne.jp>) を制作していますので、ぜひ参考にしてください。

<第2部 (プレゼンテーション部門)>

第2部の課題は自分の学校を紹介することでしたが、この部門の応募作品のレベルの高さには特筆すべきものがあり、そのため当初意図していたよりも多い応募者が予選を突破することとなりました。

内容の理解に支障があるような作品はほとんどありませんでしたが、われわれ審査員にとりわけ興味深かったのは、応募者が自分の学校を、統計的なデータ、建物の配置、学校の理念、提供される教育、他の学校との違い、学校での一日の再現、図書館のガイドツアー、学校が与えてくれたものなど、それぞれに大きく異なった、時にきわめて独創的な視点で紹介していたことでした。ほとんどの応募者が、知っている語彙や文法を駆使しており、日常生活の重要な部分についてはこれまでに学んだことを使ってすでに表現できることが示されていました。これにはとても感銘を受けました。また多くの作品が、明確で論理的な構成、優れた導入部、よく練られたメインパート、まとまりのある結論を備えていました。

本選に向けては発音を鍛えることが重要になります。一文の中でのアクセント、リズムの滑らかさ、間の取り方、そしてもちろん個々の音の発音といったことです。表情やジェスチャーで表現を豊かにすること、さらにはパワーポイントなどの視覚的ツールのデザインや活用方法も重要になります。いずれにしても、この部門の初演をステージ上に見出せることを、審査員はすでにたいへん楽しみにしています。

<第3部 (フリースピーチ部門)>

例年と同様、第3部の応募作品は高い水準にありました。今年は初めての試みとして、社会的な問題に明確に言及したテーマを選ぶことを条件としました。ほとんどの応募者がこの点に十全に注意を払っていたため、審査員は、環境問題、多様性、地域言語、世界的な貧富の格差、フェアトレード、オンライン教育の可能性などをテーマにした、非常に独自性の高い優れた作品の中で選別を行わなければなりませんでした。

多くの応募者が自分自身の経験に基づいた論述を行っており、論旨は非常に鮮明でした。審査員が重視した点は、提示する問題を一方的に検討するだけでなく、その問題の解決に向けて明確な方向性を示したり、問題を多様な視点から照らし出したりしていることです。また多くの作

品で、事実に基づいて論旨が展開されています。自身の主張を裏付けるのに適した事実が選ばれ、信頼できるソースから採られていて、さらに適切に引用されていれば、もちろん説得力が増します。自分の意見を明確に述べていなかったり、論拠を示していなかったり、事実の羅列に終わっていたりする文章は、十分な独自性がないとみなされます。また社会的な視点を含まず、個人的な問題に終始しているだけの文章は、たとえ言語的に優れていても本選には選ばれませんでした。明確な構造を持ち、各部分が相互に関連し合い、全体として「まとまりのある」印象を与える文章が、特に本選に相応しいものと考えられます。

言語的な構成に関しては、ネイティブチェックは文法的な誤りに限定されるべきであることをお伝えしたいと思います。ネイティブスピーカーが手を入れていないとわかるテキストが、その点によって不利になることはありません。例年どおり、自身も持っている言語的な手段を可能な限り駆使して、自分の考えを相手に伝えられる文章を自ら書くことを推奨したいと思います。

今回もまた大多数の応募者がきわめて優れた作品を仕上げていましたので、第3部での審査員の選別は容易ではなく、独自性の高いテキストのうちにも選ばれなかったものが少なくないことを付言いたします。

予選を突破したスピーチがステージ上でどのようなインパクトを与えるのか、その後の質疑応答も含めてたいへん楽しみです。

P12～P17 第1部課題テキスト
P18～P35 第2部発表原稿
P36～P45 第3部発表原稿

Fragen und Antworten

Erich Fried*

Wo sie wohnt?
Im Haus neben der Verzweiflung

Mit wem sie verwandt ist?
Mit dem Tod und der Angst

Wohin sie gehen wird
wenn sie geht?
Niemand weiß das

Von wo sie gekommen ist?
Von ganz nahe oder ganz weit

Wie lange sie bleiben wird?
Wenn du Glück hast
solange du lebst

Was sie von dir verlangt?
Nichts oder alles

Was soll das heißen?
Dass das ein und dasselbe ist

Was gibt sie dir
– oder auch mir – dafür?
Genau soviel wie sie nimmt
Sie behält nichts zurück

Hält sie dich
– oder mich – gefangen
oder gibt sie uns frei?
Es kann uns geschehen
dass sie uns die Freiheit schenkt

Frei sein von ihr
ist das gut oder schlecht?
Es ist das Ärgste
was uns zustoßen kann

Was ist sie eigentlich
und wie kann man sie definieren?
Es heißt dass Gott gesagt hat
dass er sie ist

* 朗読の際は、詩人の名前は読まなくて結構です。

問いと答え

エーリヒ・フリート

どこに住んでいるのかって？
絶望の隣の家さ

誰の親戚なのかって？
死と恐怖さ

いなくなるときは
どこへ行くのだろうって？
誰も知らないのさ

どこから来たのかって？
すぐそこからさ あるいはずっと遠くから

いつまでいるのだろうって？
運がよければ
君が生きているかぎり

君に何を求めるのかって？
何も あるいはすべてを

どういう意味？
同じ ということさ

君に あるいは僕にも
何を返してくれるのだろう？
受けとる分と同じだけさ
手もとには何もとどめずに

君を あるいは僕を
縛りつけるものなのか？
それとも僕らを解きはなつのか？
僕らに自由を与えてくれる
ということもあるだろう

もし「それ」がないとしたら
よいこと？ 悪いこと？
僕らの身に起こりうる
最悪のことさ

「それ」とはいったい何のこと？
どう定義すればよいだろう？
神は言ったそうさ
自分こそが「それ」なのだ

Die Loreley

Heinrich Heine*

Ich weiß nicht, was soll es bedeuten,
Dass ich so traurig bin;
Ein Märchen aus alten Zeiten,
Das kommt mir nicht aus dem Sinn.

Die Luft ist kühl und es dunkelt,
Und ruhig fließt der Rhein;
Der Gipfel des Berges funkelt
Im Abendsonnenschein.

Die schönste Jungfrau sitzet
Dort oben wunderbar;
Ihr goldnes Geschmeide blitzet,
Sie kämmt ihr goldenes Haar.

Sie kämmt es mit goldenem Kamme
Und singt ein Lied dabei;
Das hat eine wundersame,
Gewaltige Melodei.

Den Schiffer im kleinen Schiffe
Ergreift es mit wildem Weh;
Er schaut nicht die Felsenriffe,
Er schaut nur hinauf in die Höh.

Ich glaube, die Wellen verschlingen
Am Ende Schiffer und Kahn;
Und das hat mit ihrem Singen
Die Lore-Ley getan.

* 朗読の際は、詩人の名前は読まなくて結構です。

ローレライ

ハインリヒ・ハイネ

私にはわからない、一体どういうことなのか
これほどまでに悲しいとは
昔から伝わる物語
それが私の心から離れない

空気は冷たく、たそがれて
静かに流れるライン川
山の頂は輝いている
夕映えのなかで

この上なく美しい乙女が腰かけている
あそこの（岩の）上に美しい姿で
乙女の金の飾りはきらめき、
乙女は金色に輝く髪をくしけずる

^{こがね} ^{くし} ^す
黄金の櫛で髪を梳き
乙女は歌を口ずさむ
それは妙なる
力強い調べ

小舟に乗った船乗りを
凄まじい、もの悲しさに襲うその調べ
岩礁は目に入らず、
船乗りは上を仰ぎ見るばかり

波が呑み込んでしまうだろう
最後には船乗りも小舟をも
それは乙女の歌を使って
ローレライがなしたこと

Vor dem Gesetz

Franz Kafka*

Vor dem Gesetz steht ein Türhüter. Zu diesem Türhüter kommt ein Mann vom Lande und bittet um Eintritt in das Gesetz. (...)

»Es ist möglich«, sagt der Türhüter, »jetzt aber nicht.«

(...) Solche Schwierigkeiten hat der Mann vom Lande nicht erwartet; (...) aber als er jetzt den Türhüter in seinem Pelzmantel genauer ansieht, seine große Spitznase, den langen, dünnen, schwarzen tatarischen Bart, entschließt er sich, doch lieber zu warten (...). Der Türhüter gibt ihm einen Schemel und lässt ihn seitwärts von der Tür sich niedersetzen.

Dort sitzt er Tage und Jahre. Er macht viele Versuche, eingelassen zu werden, und ermüdet den Türhüter durch seine Bitten. (...)

Vor seinem Tode sammeln sich in seinem Kopfe alle Erfahrungen der ganzen Zeit zu einer Frage, die er bisher an den Türhüter noch nicht gestellt hat. Er winkt ihm zu. (...)

»Was willst du denn jetzt noch wissen?« fragt der Türhüter, »du bist unersättlich. «

»Alle streben doch nach dem Gesetz«, sagt der Mann, »wieso kommt es, dass in den vielen Jahren niemand außer mir Einlass verlangt hat?«

Der Türhüter erkennt, dass der Mann schon an seinem Ende ist, und, um sein vergehendes Gehör noch zu erreichen, brüllt er ihn an:

»Hier konnte niemand sonst Einlass erhalten, denn dieser Eingang war nur für dich bestimmt. Ich gehe jetzt und schließe ihn.«

* 朗読の際は、作家の名前は読まなくて結構です。

掟の前で

フランツ・カフカ

掟の前に門番が立っている。田舎出の男が門番のところに来て、掟の中に入れてくれと頼む。(中略)

「できなくはない」と門番は言う。「だが、今はだめだ」

(中略) 田舎出の男は、こんな難所を予期してはいなかった。(中略) が、毛皮のコートに身を包み、大きく尖った鼻、長く細く黒いタタールひげを生やした門番をよく眺めてみて、やはり待つことにする。(中略) 門番は男に椅子を与え、ドアの脇に座らせる。

男は何日も、何年もそこに座りつづける。中に入れてくれと何度となく懇願し、その執拗さで門番をうんざりさせる。(中略)

死を前にし、それまでに経験したあらゆることが男の脳裏にひしめき、まだ門番に訊いたことのなかった、たったひとつの問いに集約されてゆく。男は門番に手招きする。(中略)

「いまさら、何を知りたいというのだ？」と門番が尋ねる。「欲の深いやつだな」

「だれもが掟を求めているはずだ」と男は言う。「この長い年月、おれ以外にだれひとり、入れてくれと言ってこなかったのはどうしたわけだ？」

門番は、男がじきに死を迎えることを察し、もうほとんど聞こえないその耳に届けようとなる。

「他のだれかが入れてもらえるはずなどなかった。この門はお前専用だったのだからな。さて、門を閉めに行くとするか」

„Mein Traum und meine Schule“

Tamane Hoshino
Shonan Gakuen High School

Guten Tag. Mein Name ist Tamane Hoshino.

Was bedeutet euch die Schule?

Meine Schule ist für mich ein Ort, der mir Spaß am Lernen und Träume gebracht hat.

Heute möchte ich über zwei Themen sprechen. Über die charakteristischen Züge meiner Schule, und über das, was ich von der Schule gelernt habe. In meiner Schule lernen Schüler der Mittelstufe und der Oberstufe im selben Schulhaus.

Die Junioren sind lustig und haben uns viel zu geben. Alle Schüler wirken bei ihren liebsten Clubaktivitäten mit. Jede Clubaktivität versteht sich gut mit den anderen, zum Beispiel feuert die Blaskapelle die Baseballteams an.

Unsere Schulveranstaltungen bringen alle zusammen. Im Mai haben wir ein Sportfest. Alle Schüler werden einer von fünf Farben, und damit einem Team, zugeteilt und machen viele Wettkämpfe. Die Sonne im frühen Sommer ist sehr schön, und die fünf Flaggen sehen aus wie ein Regenbogen. Beim Schulfest im Oktober verkaufen wir Essen an einem Stand, bauen ein Spukhaus und führen ein Theaterstück auf. Es ist nicht leicht, alle Ideen, Geld und Zeit abzustimmen. Im Januar haben wir ein Chorfest. Wenn ich mit jemandem singe, habe ich das Gefühl, dass sich unsere Gefühle überlagern.

In meiner Schule wird der Ablauf der Schulveranstaltungen von den Schülern selbst in die Hand genommen. Wir können entscheiden, was wir von diesen Schulveranstaltungen lernen.

In meiner Schule haben wir auch viele Lerngelegenheiten außerhalb des Unterrichts.

In den großen Ferien fahren viele Schüler zum Lernen für kurze Zeit nach Übersee. Ich bin nach Alberta, nach Kanada, gefahren, als ich in der Mittelschule war. Ich habe dort eine Schule besucht und die Geschichte Kanadas gelernt. Auch bin ich in ein Altersheim gegangen und habe den Leuten dort die japanische Kultur näher gebracht, Origami, Kendama und so weiter.

Das war total wunderbar. Auf diese Weise gehen die Schüler ins Ausland, um andere Kulturen kennen zu lernen.

Im Herbst macht jede Klasse eine Lernreise. Diese Schüler lernen über Ziele für nachhaltige Entwicklung und lernen das Problem des Gebiets kennen, in das sie gehen. Sie können das Wissen, das sie zuvor erworben haben, durch ihre Reise erleben. Das wird ihnen helfen, gebildete Erwachsene zu werden.

Einige werden auf einer Insel im Seto-Binnenmeer übernachten und Landwirtschaft lernen. Andere von ihnen werden nach Hokkaido gehen, um etwas über die Ainu zu lernen. Wir fahren an viele Orte. Dann gibt jeder Schüler eine Präsentation über das, was er auf der Reise gelernt hat.

Ist Lernen nur auf einem Stuhl sitzen und ein Lehrbuch lesen? Nein. Wir können auch lernen, indem wir mit Menschen sprechen, sehen und zuhören.

Jetzt möchte ich erzählen, was ich aus dem Schulleben gelernt habe. An meiner Schule interagieren die Schüler mit Menschen nicht nur innerhalb der Schule, sondern auch außerhalb der Schule, der Region und des Lands.

Also können wir die Anderen respektieren.

Wegen der Pandemie vermeiden alle den Kontakt zueinander in diesen Tagen. Aber vor allem die Kommunikation von Herz zu Herz finde ich erforderlich.

Ich habe gelernt, wie wichtig es ist, mit anderen zu kommunizieren. So will ich zum Kontakt zwischen Menschen beitragen. Und ich begann, mich für fremde Kultur und fremde Sprachen zu interessieren.

Jetzt träume ich davon, Diplomatin zu werden.

Ich hoffe, dass Deutschland und Japan, aber auch die ganze Welt, ein gemeinsames Herz haben werden.

Die Schule kann uns so viel lehren. Wenn wir erwachsen sind, werden uns die Dinge, die wir in der Schule lernen, nützlich sein.

Danke schön.

『私の学校と、私の夢』

湘南学園高等学校（神奈川県）
2年 星野 圭音

こんにちは。星野圭音と申します。

みなさんにとって、学校とはどんな場所ですか？

私にとって、学校は、学ぶことの楽しさや、夢を与えてくれた場所です。

今日は2つのテーマについてお話したいと思います。私の学校の特徴と、そして私が学校で学んだことについてです。

私の学校では、中学生と高校生と一緒に学んでいます。後輩たちはとても元気が良く、いろいろなことを教えてくれます。

どの生徒も、自分の好きなクラブ活動に参加しており、吹奏楽部が野球部を応援するなど、それぞれの部活が仲良く活動しています。

学校行事は、私たちみんなを一つにしてくれます。

5月には体育祭があります。生徒は全員、5色のチームに分かれて、様々な競技を行います。初夏の太陽はとても美しく、5色の旗はまるで虹のようです。10月の学園祭では、屋台で食べ物を売ったり、お化け屋敷を作ったり、劇をしたりします。みんなのアイデアや、お金、時間を調整していくことは簡単ではありません。1月には合唱祭があります。他の誰かと一緒に歌っていると、お互いの気持ちが重なっていくような感じがします。

学校行事の運営は、全て生徒達自身が進めていきます。これらの学校行事から何を学ぶかは、私たちが決めることができるのです。

また、私の学校では、授業以外でも、学びの機会がたくさんあります。

私は中学生の頃に、カナダのアルバータ州を訪れました。現地の学校に通って、カナダの歴史を学んだり、老人ホームを訪問し、折り紙やけん玉などの日本の文化を入居者の方へ伝えたりしました。これはとても素敵な思い出です。

このようにして、生徒達は海外に出て、他の文化に触れるのです。

秋には各クラスで研修旅行に出かけます。

生徒は事前にSDGsについて学び、訪問先の地域の課題を調べ、そして旅行を通してその知識を実感することができます。この体験は、私たちが教養のある大人へ成長する手助けになります。

生徒は、瀬戸内海の島に滞在して農業を教わったり、北海道に行き、アイヌについて学んだりします。様々な場所を訪れることができます。そして学校に戻り、それぞれの生徒が旅行中に学んだことを発表します。

勉強とは、椅子に座って、教科書を読むことだけでしょうか？

いいえ、私たちは、誰かと話したり、ものを見たり、耳を傾けることでも学ぶことができます。それでは、私が学校生活で学んだことについて、話したいと思います。私の学校では、生徒たちは学校の中に限らず、学校の外で、地域、国をも超えて様々な人と交流します。だからこそ、私たちは、相手を尊重することができるようになるのです。

最近では、コロナウイルスの影響で誰もが人との接触を避けています。ですが、他の何よりも、人と心を通わせて、コミュニケーションを取ることが必要だと、私は思うのです。

私は、人とつながることがいかに大切かを学びました。そして、人と人とのつながりに貢献したいという思い、外国の文化や外国語に興味を持つようになりました。

今、私には、外交官になる、という夢があります。

ドイツと日本、また、この全世界が一つの同じ心を持つようになることが私の願いです。

学校は私たちに多くのことを教えてくれます。

私たちが大人になったとき、私たちが学校で学んだことが、きっと助けになるでしょう。

ありがとうございました。【本人和訳】

Meine wunderbare Schule

Saori Kawashima

Kanagawa Prefectural Yokohama Senior High School of International Studies

Es dauert 20 Minuten vom Bahnhof zur Schule. Meine Schule ist auf einem steilen Hügel. Viele Schüler gehen den Hügel hinauf. Auch wenn die Schüler ihn hinauf gehen müssen, gehen sie gern zur Schule. Obwohl sich unser Schulleben durch COVID-19 geändert hat, hat unsere Schule an Reiz nicht verloren. Ich will heute das Besondere an unserer Schule vorstellen.

Meine Schule heißt Yokohama Senior High School of International Studies. Sie ist sehr international und der Englischunterricht hat ein hohes Niveau. Zum Beispiel gibt es einen Rede-Unterricht und einen Essay-Unterricht. Wir können auch verschiedene Kulturen kennenlernen. Wir müssen eine zweite Fremdsprache nehmen, wenn wir in der ersten Klasse sind.

Ich denke, dass die Studienfahrt und der Austausch mit der Partnerschule am wichtigsten sind. Wir können Sprachen und Kulturen kennenlernen. Aber wegen der Pandemie finden diese Events nicht statt. Wir sind sehr, sehr, sehr traurig. Wir wollten so gerne ins Ausland gehen. Doch vielleicht können wir nicht ins Ausland gehen, während wir in dieser Schule sind.

Aber die Anziehungskraft der Schule ist nicht völlig verloren, weil meine Schule verschiedene Typen von Schülern hat. Einige Schüler haben Erfahrungen in anderen Ländern. Einige Schüler haben Familien aus dem Ausland. Aber einige Schüler waren noch nie im Ausland. Jeder Schüler hat einen anderen Hintergrund und eine andere Kultur. Diese Umgebung hat viele Vorteile. Erstens kann man verschiedene Meinungen und neue Ideen kennenlernen. Ich bin in der Lage, über soziale Probleme nachzudenken und ich bin an zahlreichen Themen interessiert. Ich bekomme eine Menge Inspiration von Freunden. Darüber hinaus können die, die sich für soziale Themen interessieren, ihre Interessen verfolgen. Jeder denkt darüber nach, was er für die Welt tun kann. Alle können zusammenarbeiten und neue Ideen schaffen. Wenn ich mit Freunden diskutiere, habe ich Spaß, denn ich kann von ihnen neue Werte lernen. Wir können auch verschiedene Meinungen annehmen. In meiner Schule ist es normal, sich gegenseitig zu unterstützen. Das ist so wunderbar, nicht wahr? Übrigens gibt es an meiner Schule fast keine Schulregeln. Wir können die Haare färben. Wir können gekleidet kommen, wie wir möchten. Das ist kein Problem. Ich denke, dass wir kreativ und tolerant sind, weil wir frei sind. Diese Freiheit schafft Unabhängigkeit. Sie schafft auch Verantwortung. Diese beiden Haltungen sind für die heutige Gesellschaft sehr nützlich. Ich glaube, dass wir in der Schule wachsen können. Deshalb finde ich meine Schule wirklich toll.

私の素晴らしい学校

横浜国際高等学校（神奈川県）

2年 河島 彩織

駅から20分。急な坂を登ったところに私の学校はあり、ほとんどの生徒が坂を上ってきます。そんな坂を上ってでも生徒はここに来たいと思うほどに、この学校には魅力があります。コロナによって学校生活が大きく変わってしまいましたが、その魅力は衰えていません。今日はその魅力を紹介します。

私の学校は横浜国際高校といえます。国際色豊かで、英語の授業のレベルが高いです。スピーチの授業やエッセイの授業が受けられます。様々な国の文化について学ぶ授業もあります。また一年次には第二外国語の授業を受講することが必須となっています。

私が思うこの学校の一番の特徴は、海外への修学旅行と海外にある姉妹校との交流です。そこで言語や文化について学ぶことができます。しかし、このパンデミックの影響でそのような行事の開催は見送られています。残念で仕方ありません。どうにか海外へ行きたかったのですが、もしかすると高校生のうちに海外に行くという経験は叶わないかもしれません。

しかし、この学校の魅力は完全になくなったわけではありません。なぜならここには様々なバックグラウンドを持った生徒がいるからです。家族が海外出身の人もいれば、海外に住んでいたことのある人もいます。一方で、一度も日本から出たことのない人だっています。それぞれの生徒が違ったバックグラウンドや文化を持っているのです。この環境は良い影響をもたらします。まず、彼らは互いに様々な意見やアイデアを学ぶことができます。それにより私は社会問題について深く考えたり、いろいろなトピックに興味を持ったりしました。加えて、彼らは興味のある社会問題を追究し、世界のために何ができるのか、熟考することができます。協力して新たなアイデアを生み出すことも可能です。友達とのディスカッションは有意義で、新たな価値観を学ぶことができます。その中で、私たちは自分と違う意見を受け入れることができます。このように、私の学校では日頃から互いに支え合っています。素晴らしいことだと思いませんか。

ちなみに、私の学校にはほとんど校則はありません。髪の毛を染めることも好きな格好で登校することもできます。これはなんら悪いことではありません。私たちが創造的で寛容なのは、私たち自身が自由であるからだと思います。同時に、自由であることは、私たちに自主性と責任感を生みだします。これらの態度は、現代を生きる上で大変有用なことです。私はこの学校での成長を確信しています。そんな私の学校はとても素晴らしいと思います。【本人和訳】

Das Besondere an meiner Schule

Mahiro Shimada
Kozukata High School

Meine Schule heißt Kozukata Oberschule und ist in Yahaba, in der Präfektur Iwate. Auf meine Schule gehen mit mir, Mahiro, Schülerin aus dem dritten Jahr, mehr als 830 Schülerinnen und Schüler aus vielen Orten in ganz Iwate.

Manche von ihnen fahren zur Schule mehr als eine Stunde mit dem Zug. Der Grund hierfür ist, dass es verschiedene Fachrichtungen gibt, aus denen die Schüler wählen können. Diese sind Sport, Geisteswissenschaften, Naturwissenschaften, Fremdsprachen und Kunst. Bei Kunst kann man zudem zwischen Musik und Zeichnen wählen.

Ich möchte nun erklären, was das Besondere ist.

Erstens: Es ist, als gäbe es fünf verschiedene Schulen in einer. Als Folge gibt es eine große Vielfalt unter den Schülern, die sich untereinander austauschen und gegenseitig anregen und auf diese Weise voneinander lernen.

So ist auf den Fluren eine Nachbildung der hellenistischen Skulptur „Nike von Samothrake“ aufgestellt und zudem viele selbstgemachte Kunstwerke. Jeden Morgen ertönt vor Unterrichtsbeginn Klavier- und Geigenmusik durch die Gänge.

Zweitens: Wir lernen nicht nur Fremdsprachen, sondern auch über die Kulturen und Sichtweisen anderer Länder. Hierfür gibt es Lehrer, die Englisch, Französisch oder Deutsch als Muttersprache haben. Austauschschüler aus Asien und Ozeanien, Amerika und Europa besuchen jedes Jahr unsere Schule.

Was mich betrifft, habe ich den Sprachenzweig gewählt. Als erste Fremdsprache gibt es Französisch, Englisch oder Chinesisch und als zweite Fremdsprache Deutsch, Spanisch oder Koreanisch. Jeden Tag habe ich daher Deutsch- oder Englischunterricht.

Auf diese Weise entdecke ich für mich viel Neues und kann täglich mit ganz unterschiedlichen Leuten Ideen und Gedanken austauschen. Das ist es, was ich das Besondere an der Kozukata Oberschule finde. Es ist ein Ort, an dem jeder etwas für sie oder ihn Interessantes und zudem immer spannende Menschen zum Gedankenaustausch findet. Um später aus seinem Leben etwas für sie oder ihn Besonderes zu machen.

唯一無二の私の学校

不来方高等学校（岩手県）
3年 嶋田 眞嘉

私の学校は不来方高校と呼ばれ、岩手県矢巾町にあります。私の学校には私を含め 830 人以上もの生徒が通っています。生徒が選択できる様々な学系があるため、生徒の中には電車で 1 時間以上かけて通う人もいます。学系は体育、人文、理数、外国語、芸術があります。芸術学系では、音楽と美術のどちらかを選択することができます。

私の学校の何が特別なのかを説明したいと思います。

まず、1つの学校に5つの異なる学校があるようなところです。アイデアを交換し、お互いを刺激し合い、お互いから学ぶ生徒の間には大きな多様性があります。また、廊下にはヘレニズムの彫刻「サモトラケのニケ像」のレプリカや、生徒が作った多くの芸術作品が置かれています。そして、毎朝授業が始まる前に廊下からピアノとバイオリンの音色を聞くことができます。

次に、私たちは外国語を学ぶだけでなく、他の国の文化や視点についても学びます。なぜなら、英語、フランス語、ドイツ語を母語とする先生がいて、アジア、オセアニア、アメリカ、ヨーロッパからの留学生が、私たちの学校を訪れるからです。

私は外国語学系に在籍しています。第一外国語にはフランス語、英語、中国語があり、第二外国語には、ドイツ語、スペイン語、そして韓国語です。私は英語とドイツ語を選び、毎日外国語の授業を受けています。このように私はたくさんの楽しいことを発見し、毎日異なる人々とアイデアや考えを交換することができます。これが不来方高校の特別なところです。誰もが自分にとって面白いと思うことを見つけ、常に刺激的な人々とアイデアを交換できる場所です。後の人生で、自分にとって特別なものを生み出すために。【本人和訳】

Die Schule, die mir einen Traum geschenkt hat.

**Koudai Arakawa
Ina Gakuen High School**

Mein Name ist Koudai Arakawa. Ich bin Schüler an der Inagakuen. Inagakuen hat mir einen Traum gegeben. Inagakuen gefällt mir wunderbar, weil wir an keiner anderen Schule auf so einzigartige Art lernen können.

Unsere Sprachabteilung ist besonders, denn wir können nicht nur Englisch, sondern auch Französisch, Chinesisch und Deutsch lernen. Da ich hier seit über 2 Jahren Deutsch lerne, möchte ich die Deutschabteilung an unserer Schule genauer vorstellen. Der Deutschunterricht an der Ina Gakuen gefällt mir sehr gut. Wir lernen nicht nur die Sprache, sondern auch über die Kultur. Dadurch erfahren wir über die Besonderheiten der deutschen und japanischen Kultur, von denen wir gegenseitig lernen können.

Im Moment lernen wir über die 17 Nachhaltigkeitsziele, besser auch als SDGs bekannt, zum Beispiel über Armut, Hunger und Weltfrieden. Wir recherchieren über die Ziele, machen Präsentationen darüber und tauschen unsere Ansichten aus. Es gibt viele Perspektiven und Blickwinkeln, aus denen wir die Dinge betrachten sollten, wenn wir über die Probleme und Lösungen nachdenken, denn nur so können wir wachsen und unseren Horizont erweitern.

Außerdem zeichnet unsere Schule noch eine andere besondere Eigenschaft aus. Und zwar ist die Inagakuen eine PASCH-Schule. Manche werden sich jetzt sicherlich denken: Was ist PASCH? PASCH ist eine Initiative und steht für "Schulen: Partner der Zukunft". Im Prinzip ist PASCH ein weltweites Netzwerk, das junge Menschen in Schulen aus 120 verschiedenen Ländern zusammenbringt, die Deutsch als Fremdsprache lernen. Durch diese Vernetzung gibt es die großartige Möglichkeit, uns gegenseitig auszutauschen und zusammen an bedeutungsvollen Projekten zu arbeiten.

Ich habe an einem Workshop teilgenommen, "Sport der Zukunft". Da haben wir darüber nachgedacht, wie sich der Sport in der Zukunft verändern könnte. In unserer Gruppe hatte ich die Idee, dass man als Zuschauer mit einer VR-Brille einen Sport aus der Perspektive eines Spielers sehen könnte. Durch dieses Projekt hat sich meine Vorstellungskraft verbessert und ich konnte über meine Zukunft nachdenken. Es werden für PASCH nur Schulen ausgewählt, an denen die Schüler aktiv Deutsch lernen. In Japan gibt es nur 4 PASCH-Schulen. Dass die Inagakuen ein Teil von diesem Netzwerk ist, macht mich sehr stolz.

An der Inagakuen habe ich eine Menge dazulernen und neue Erfahrungen sammeln können.

Besonders habe ich meine Deutschkenntnisse ausbauen können. Durch Deutsch haben sich für mich viele neue Türen geöffnet. Zusammen mit unseren wunderbaren Deutsch-Lehrerinnen und Klassenkameraden konnte ich eine neue Welt sehen, einschließlich der Wichtigkeit der Kommunikation und dem Spaß an der Erweiterung des eigenen Horizonts.

Und jetzt habe ich einen Traum für mich gefunden: Ich möchte nach Deutschland gehen!

Es ist ein einfacher Traum, aber es ist ein großer Traum für mich. Ich möchte Deutschland in echt erleben und seine Kultur und Geschichte erfahren. Dadurch würde ich nicht nur über Deutsch und Deutschland dazu lernen können, sondern könnte durch die Ähnlichkeiten und Unterschiede meine eigene Sprache und Kultur besser verstehen.

Es gibt noch so viele andere Besonderheiten unserer Schule, die ich nicht vorstellen konnte, da dies den Rahmen sprengen würden.

Besuchen Sie gerne einmal unsere Schule. Ich würde Sie gerne herumführen. Dann werden Sie wissen, warum ich es hier so liebe. Danke schön.

『私に夢を与えてくれた学校』

伊奈学園総合高等学校（埼玉県）
3年 荒川 晃大

私の名前は荒川晃大です。伊奈学園総合高校に通っています。

伊奈学園は私に夢を与えてくれました。

こんなに興味深い方法で学べる学校はこの学校以外ではありません。私は伊奈学園がとても好きです。英語だけでなく、フランス語、中国語、ドイツ語も学べるのが伊奈学園の特徴です。私はここで二年以上ドイツ語を学んでいるので、伊奈学園のドイツ語科をより詳しく紹介します。

私は伊奈学園のドイツ語の授業がとても好きです。なぜなら、言語だけでなく、文化についても学ぶことができるからです。授業を通して、ドイツと日本の文化の独自性を知り、ドイツ語を学ぶ仲間とお互いに学びあうことができるのです。

現在、私は17の持続可能な開発目標、通称「SDGs」について学んでいます。

私たちは授業の中で目標について考え、それについてドイツ語でプレゼンテーションを行い、意見交換をします。問題点や解決策を考えるときには、様々な視点から見るべきであり、そうすることで初めて自分自身が成長し、視野を広げることができます。

さらに、本校にはもう一つの特徴があります。

伊奈学園は「PASCH」に認定されています。皆さんは「PASCH」とは何だろう？と感じると思います。PASCHとは、School Partners for the Futureの略で、「未来のための学校」を意味します。PASCHは外国語としてドイツ語を学んでいる120か国以上の若者たちを集めた世界的なネットワークです。このネットワークを通じて、アイデアを交換したり、プロジェクトと一緒に取り組んだりすることができます。

私は、“Sport der Zukunft”というワークショップに参加し、今後スポーツがどのように変化していくのかを考えました。

生徒が積極的にドイツ語を学んでいる学校だけがPASCHに選ばれます。PASCH校は日本に4校しかありません。伊奈学園がこのネットワークの一員であることは私にとって大きな誇りです。

伊奈学園では多くのことを学び、経験することができました。特にドイツ語で自分自身を成長させることができました。

ドイツ語の学習を通して、新しい世界の扉を開けることができました。素晴らしいドイツ語の先生方やクラスメートとともに、コミュニケーションの大切さや、視野が広がることの面白さも含めて、世界が広がりました。

そして、私はここで夢を見つけることができました。「ドイツに行く」という夢です！

これは単純な夢のように思えます。しかし、私にとっては大きな夢なのです。

ドイツに行って実際に言語や環境に触れ、文化などを体験したいです。

いつか私の学校へお越しください。喜んでご案内させていただきます。

そうすれば私がなぜ伊奈学園をこんなにも好きな理由がわかるでしょう。

ありがとうございました。【本人和訳】

Eine Tour durch die Bibliothek mit mir

**Fuyuka Oomura
Ina Gakuen High School**

Hallo, ich heiße Fuyuka Oomura und bin Schülerin der Ina Gakuen. Ich lese gerne und liebe Bücher über alles. Da ich in der Woche zwei bis drei Mal in die Schulbibliothek gehe, möchte ich gerne die Bibliothek meiner Schule vorstellen.

Unsere Bibliothek hat über 110.000 Bücher. Die meisten Schulen haben im Durchschnitt etwa 23.000 Bücher, das heißt, unsere Schule hat fünf Mal so viele Bücher wie andere Schulen.

Kommt mal mit. Ich gebe eine kleine Tour durch unsere Bibliothek! Hier sind zum Beispiel Bücher über allgemeine Hinweise und Philosophie oder Religion. Hier sind Geschichtsbücher. Dieser Schrank hat Bücher über Sozialwissenschaften. Hier kann man Bücher über Naturwissenschaften finden und hier kannst du in die Welt der Technologie und Industrie eintauchen. Hier sind Kunstbücher. Und hier gibt es japanische und ausländische Literatur. Es gibt sowohl Taschenbücher als auch Hardcover-Bücher.

In der Bibliothek gibt es drei Bibliothekare, weil wir so viele Schülerinnen, Schüler und Lehrerinnen und Lehrer sind, aber natürlich auch deshalb, weil wir so viele Bücher haben! Ich habe herausgefunden, dass andere Schulen meistens nur einen Bibliothekar haben. Wenn an unserer Schule nur ein Bibliothekar arbeiten würde, wäre er oder sie sehr beschäftigt.

Wir haben besonders viele Kunstbücher im Vergleich zu anderen Schulen. Unsere Bibliothek hat etwa 200 Bilderbücher.

Manchmal organisiert unsere Bibliothek besondere Veranstaltungen. Zum Beispiel wird im Flur ein Stand mit Büchern aufgebaut. Wenn man durch den Flur geht, kann man einen Blick in die Bücher werfen. Diese Idee entstand, weil Schülerinnen und Schülern in den Häusern 5 und 6 es bis zur Bibliothek sehr weit haben.

Außerdem gibt es in der Bibliothek zwei Ausstellungen, die Bibliothekare und Bibliothekarinnen jeden Monat organisieren. Da bauen sie dann Stände mit Büchern über Arbeit, Essen und AGs auf. Ältere Schüler bauen manchmal auch Stände über ihre Lieblingsbücher und Empfehlungen auf.

Ich denke, dass das Lesen nicht nur viel Spaß macht, sondern dass man auch so viel Neues dazu lernen kann. Deshalb möchte ich andere dazu bewegen, mehr zu lesen.

Ich habe diese Quellen benutzt.
Danke schön.

図書館ツアーへようこそ！

伊奈学園総合高等学校（埼玉県）
3年 大村 風歌

こんにちは、伊奈学園の大村風歌です。私は読書が趣味で幅広いジャンルの本を読みます。私は学校の図書館に週2回から3回通います。そこで今回、私の学校の図書館を紹介したいと思います。

伊奈学園の図書館には約11万冊の本があります。日本全国の高校の平均所蔵冊数は約2万3000冊となっています。つまり、伊奈学園は他の高校の約5倍の量の本を所蔵しているということです。

どうぞ私と一緒に来てください！！図書館をめぐる小さなツアーへ案内します!!

ここには、総記、哲学そして宗教に分類される本があります。ここには歴史、こちらの棚には社会科学があります。ここでは自然科学の本を見つけることができます。そしてこちらでは技術や産業の世界に浸ることができます。ここには美術の本があります。さらにこちらには日本の作家、世界の作家による文学作品があります。

伊奈学園の図書館には司書の先生が3人います。なぜなら伊奈学園には大勢の生徒と先生が居て、お伝えしたように大変多くの本を所蔵しています。他の学校にはたいてい1人の司書の先生しかいません。もし、伊奈学園に司書の先生が1人しかいなかったら、とても忙しくなってしまいます。

伊奈学園の図書館には他の学校と比較して多くの絵本があります。伊奈学園には200冊以上の絵本があります。

しばしば開催される図書館のイベントがいくつかあります。例えば、廊下で開催される図書館のブース、出張図書館です。生徒や先生がこの廊下を通り過ぎる際に本を見たり、借りたりすることができます。なぜなら第5、第6校舎(5、6ハウス)の生徒にとって図書館はとても遠いのでこのようなアイデアが考え出されました。

さらに図書館内には、毎月司書の先生が制作する主に2つの特設コーナーがあります。それらは仕事や食事、部活に関する本などで作られています。また、先輩方によるおすすめのライトノベルを紹介したコーナーも作られました。

私は読書はとても楽しいだけでなく、多くの新しいことを学ぶことができますと思います。だから、私は皆さんにもっと多くの本を読んで欲しいと思います。

今回資料として、こちらを使いました。

ご静聴ありがとうございました。【本人和訳】

Der besondere Unterricht an der Inagakuen

Tamaki Arai
Ina Gakuen High School

Guten Tag! Mein Name ist Tamaki. Ich bin Schülerin der Inagakuen und lerne besonders intensiv Deutsch. Heute stelle ich das selektive Unterrichtssystem an der Inagakuen vor, weil es einzigartig ist und unsere Schule als erste Schule ein solches System eingeführt hat.

Es gibt 13 verschiedene akademische Fachrichtungen an der Inagakuen. Es gibt nicht nur Landessprache, Mathematik und Englisch, sondern auch Deutsch, Französisch, Chinesisch, Kalligraphie, Kunstgewerbe, Kunst, Musik, Sport, Informationsmanagement und Biowissenschaften. Es gibt eine große Auswahl an Fachangeboten an der Inagakuen, weil wir so viele Schülerinnen und Schüler sind.

Was meinst du, wie viele Schüler es an der Inagakuen gibt? 1. 800, 2. 1600 oder 3. 2400? Die Antwort ist 3. ca. 2400. Wir Schüler haben unseren eigenen, selbst zusammengestellten Stundenplan, denn wir können uns die Fächer selbst nach Belieben aussuchen.

Ich stelle einige spezielle Fächer vor.

Das erste Fach ist Deutsch. Die Inagakuen hat eine ALT (Assistenzlehrerin) und zwei japanische Lehrer für die Deutschabteilung. Wir können Deutsch, deutsche Kultur und über Probleme auf der Welt auf Deutsch lernen. Im Unterricht z.B. werden viele Fotos und Power-Point-Folien benutzt. Außerdem lernen wir mit den Lehrern durch Quizfragen und Spiele. Deshalb können wir mit Spaß und auf praktische Art Deutsch lernen.

Das zweite Fach, das ich vorstellen möchte, ist ein Fach, in dem Schüler Gemüse anbauen. In dem Unterricht, bauen die Schüler ihr eigenes Gemüse an, z.B. Paprika, Tomaten, Salat und Süßkartoffeln. Im Herbst grillen wir die Süßkartoffeln und essen sie zusammen. Das ist sehr gemütlich.

Das dritte Fach ist über Aktivitäten im Freien. In dem Unterricht bauen die Schüler z.B. eine Bank aus Holz und lackieren sie hinterher. Und sie machen Lagerfeuer aus Holz. Außerdem können sie Baumkuchen, Pizza und Paella selber zubereiten. Dank diesem Unterricht haben die Schüler die Möglichkeit, selber Dinge zu erschaffen.

Das vierte Fach ist über Mode. Schüler entwerfen selber Kleidung, z.B. T-Shirts, Kleider und Röcke. Zuerst planen sie den Entwurf für die Kleidung, wählen den Stoff und dann schneiden und nähen sie ihre Kleidung.

Darüber hinaus gibt es auch Unterricht für Tanz, Gymnastik, Musikinstrumente spielen, Kunst oder Schnitzerei. Für die meisten ist etwas dabei!

Ich denke, an der Inagakuen kann man nicht nur theoretische Sachen lernen, sondern auch seine praktischen Fähigkeiten ausbauen. Dank diesem System kann ich Deutsch lernen und die heutige Präsentation halten. Hat es euch gefallen?

Danke schön!

伊奈学園の特別な授業

伊奈学園総合高等学校（埼玉県）
3年 新井 碧姫

こんにちは！ 私の名前はたまきです。私は伊奈学園の生徒で、特にドイツ語を重点的に学んでいます。今日は、伊奈学園の総合選択制を紹介します。これは非常にユニークな制度で、伊奈学園が最初に導入したものです。

伊奈学園には13の学問分野があります。国語、数学、英語だけでなく、ドイツ語、フランス語、中国語、書道、工芸、美術、音楽、スポーツ、情報経営、生活科学もあります。伊奈学園ではとても多くの生徒が学んでいますが、それぞれの興味に応じた学びができるほど多くの科目の選択肢があります。

では、伊奈学園には何人の生徒が学んでいるのでしょうか？

1. 800人 2. 1600人 3. 2400人

答えは3、約2400人です。私たち学生は一人一人オリジナルの時間割を持っています。私たちは好きなように科目を選ぶことができます。

いくつかの特別な科目を紹介します。

最初はドイツ語です。伊奈学園には、ドイツ人1名と日本人1名、ドイツ語の先生が2名います。私たちはドイツ語、ドイツの文化、そして世界の問題についてドイツ語で学ぶことができます。たとえば、授業では多くの写真やPowerPointのスライドが使用されます。また、先生のクイズやゲームを通して学びます。そのため、楽しく実用的な方法でドイツ語を学ぶことができます。

2番目に紹介したいのは、学生が野菜を育てる授業です。授業では、生徒たちは自分で野菜を育てます。例えばピーマン、トマト、レタス、サツマイモです。秋にはサツマイモを焼き、みんなで食べます。季節を感じられてとても素敵な経験になります。

3つめは野外活動の授業についてです。たとえば、授業では、生徒たちは木製のベンチを作り、それに色も付けます。また木から火起こしもします。更にバームクーヘン、ピザ、パエリアを自分たちで作ることもできます。これらの授業のおかげで、生徒たちが自分たちの手で物を作るチャンスがあります。

4つめは服飾についてです。生徒は自分で服をデザインします。例えば、Tシャツ、ドレス、スカートです。最初に服をデザインし、生地を選び、次に服をカットして縫います。

その上、ダンス、体操、器楽、芸術、彫刻のクラスもあります。全ての人にとって気に入るものが見つかります！

伊奈学園では、理論的な学問を学ぶだけでなく、実践的なスキルも身につけられると思います。このシステムのおかげで、私はドイツ語を学び、今日のプレゼンテーションをすることができています。気に入ってもらえましたか？

ありがとうございました！【本人和訳】

Mammut-Schule: Die „große Seite“ von Inagakuen

Jin Sekine
Ina Gakuen High School

Hallo! Ich heiße Jin Sekine. Ich bin ein Schüler der Ina Gakuen Oberschule. Wenn ich die Ina Gakuen mit einem Tier vergleichen würde, würde ich sie mit einem Mammut vergleichen. Ja, die Ina Gakuen ist für mich eine Mammut-Schule. Warum denn ein Mammut, denkt ihr?

Nun, an der Ina Gakuen gibt es ca. 2400 Schülerinnen und Schüler. Eine Menge, nicht wahr? Außerdem hat die Ina Gakuen eine riesige und gute Einrichtung. Deshalb möchte ich euch die „große Seite“ der Ina Gakuen vorstellen.

Haus

Die Ina Gakuen hat sechs Schulgebäude, die „Häuser“ genannt werden. Jeder Schüler wird für die Dauer seiner Schulzeit einem dieser Häuser zugewiesen. Übrigens gehöre ich zum Haus 2. Außerdem hat jedes Haus eine Farbe. Unsere Farbe ist gelb. Haus 1 ist eine Mittelschule, und die Häuser 2 bis 6 gehören der Oberstufe an. Es gibt 12 Klassen pro Haus, mit jeweils etwa 30 Lehrern und einem Schulleiter.

Die Schüler verweilen zum größten Teil in ihrem eigenen Haus, das den Mittelpunkt ihres Schullebens darstellt. Aus diesem Grund wird das Haus auch als „kleine Schule“ bezeichnet. Eine Schule in der Schule, ist das nicht süß? Mit anderen Worten, man kann sagen, dass die Ina Gakuen sechs Schulen umfasst, auch wenn sie klein sind.

Größe

Die Schule ist etwa 155.000 Quadratmeter groß. Die Größe des Tokyo Dome beträgt etwa 47.000 Quadratmeter, deshalb ist die Schule dreimal so groß wie der Tokyo Dome. Da die Schule so groß ist, brauchen die Schüler sehr lange, um sich in der Schule fortzubewegen.

Für mich ist der Gang zum Spielplatz für den Sportunterricht besonders zeitaufwendig. Mein Schulgebäude, Haus 2, ist von den sechs Häusern am weitesten vom Spielplatz entfernt. Deshalb muss ich schnell sein, damit ich nicht aus Versehen zu spät zum Unterricht komme. Ist es dir schon mal passiert?

Fahrradparkplatz

Übrigens, wie kommt ihr zur Schule? Ich fahre mit dem Fahrrad zur Schule. Sehr viele Leute kommen mit dem Fahrrad zur Schule, deshalb hat die Ina Gakuen einen sehr großen Fahrradparkplatz. Jedes Haus hat einen separaten Platz zum Abstellen von Fahrrädern, und allein der Fahrradparkplatz ist sehr geräumig. Viele Schüler wie ich fahren mit dem Fahrrad zur Schule, deshalb ist der Fahrradparkplatz immer voll mit Fahrrädern. Es sind so viele Fahrräder auf dem Parkplatz abgestellt, dass ich manchmal mein Fahrrad nur schwer wiederfinde, wenn ich die Schule verlasse.

Abschweifung/Interessantes

Zum Schluss möchte ich noch eine kleine Abschweifung machen: „Der Ina See“. Wie ihr alle wisst, bilden sich Pfützen, wenn es regnet. Natürlich gibt es an der Ina Gakuen an Regentagen auch Pfützen, aber vielleicht ist es ein bisschen anders als bei anderen Schulen. Quiz: Was meint ihr, ist der Unterschied?

Der Unterschied ist die Größe der Pfütze. An Regentagen bildet sich vor dem Haupttor der Schule eine sehr große Wasserpfütze. Diese Pfütze ist unvergleichlich größer als eine normale Pfütze. Er ist so groß, dass wir ihn „den Ina-See“ nennen. Jetzt sind manche sicherlich neugierig, wie der Ina-See

aussieht. Wenn ihr auf Twitter nach „Ina-See“ sucht, findet ihr viele Fotos vom „Ina-See“.

Dies ist das Ende meiner Präsentation der Ina Gakuen. Wie ich bereits erwähnt habe, ist die Ina Gakuen eine „Mammutschule“ mit einer sehr großen Fläche und vielen Menschen, die sie besuchen. Es gibt noch viele weitere Aspekte, die ich heute noch nicht vorstellen konnte und von denen ich selbst noch nichts weiß. Ich bin gespannt, was ich in Zukunft noch Neues an meiner Schule entdecken werde!

Habe ich euch ein bisschen neugierig gemacht? Ich hoffe, dass euch die Präsentation gefallen hat. Vielen Dank/Dankeschön.

マンモス校:伊奈学園の「ビッグな面」

伊奈学園総合高等学校（埼玉県）
3年 関根 ジン

こんにちは！私の名前は関根ジンです。
私は伊奈学園総合高校の生徒です。
伊奈学園は動物に例えるとしたら、マンモスです。
そう、伊奈学園は私にとってまさに「マンモス校」であるといえます。
どうしてマンモスなのだと思いますか？
さて、伊奈学園には約2400人もの生徒がいます。とても多いですね。
加えて、伊奈学園は施設がとても充実しています。
そこで今回は、伊奈学園における「ビッグな面」をご紹介します。

まず、「ハウス」についてです。
伊奈学園には「ハウス」と呼ばれる6つの校舎があります。
生徒達は、それぞれがいずれかのハウスに振り分けられます。ちなみに、私はハウス2に所属しています。
また、各ハウスにはそれぞれハウスカラーがあります。私の所属するハウス2のハウスカラーは黄色です。
ハウス1は中学校、ハウス2からハウス6までが高校となっています。
一つのハウスに計12クラスあり、ハウスごとに教師が約30人とハウス長(教頭)先生が1人います。
基本的に生徒達は自分のハウスを中心に過ごし、そこが学校生活の中心となります。
そのため、ハウスは「小さな学校」とも呼ばれています。
学校の中に学校があるなんて、可愛いと思いませんか？
言い換えれば伊奈学園は、たとえ一つ一つが小さいとしても、6つもの学校を内包していると言えますね。

次に「大きさ」について話します。
学校の敷地の広さは約15万5千㎡です。
東京ドームの広さが約4万7千㎡なので、伊奈学園はその約3倍の大きさになります。
学校がとても大きいので、生徒達は校内を移動するのが大変です。
私の場合、体育の授業のために運動場へ行く時、特に時間がかかります。
私の所属する2ハウスの校舎は、6つのハウスの中で運動場から最も遠い場所に位置しています。
なので、うっかり授業に遅れたりしないように、素早く行動しなければいけません。
あなたにもこんな経験はありますか？

「駐輪場」について
ところで、皆さんは普段どうやって学校へ行きますか？
私は自転車で通学しています。
自転車通学の生徒がとてもたくさんいるので、伊奈学園にはとても大きな駐輪場があります。
駐輪場はハウスごとに分けられていて、その一つだけでも非常に広々としています。
私のように自転車で登校している生徒も多いため、駐輪場はいつも自転車でいっぱいです。
あまりにもたくさんの自転車が停められているので、下校する時に自分の自転車を探すのに苦労してしまう事があります。

余談

ここからはちょっとした余談となります。

「伊奈湖」

皆さんもご存知のとおり、雨が降ると地面に水たまりができます。

もちろん、雨の日の伊奈学園にも水たまりがありますが、他の学校でできる水たまりとは、少し違うかもしれません。

クイズ、

その「違い」は何だと思えますか？

違うのは、水たまりの「大きさ」です。

雨の日、伊奈学園の正門前にはとても大きな水たまりができます。

この水たまりは、普通のものとは比べものにならないほど大きいです。

あまりにも大きいので、この水たまりは「伊奈湖」と呼ばれています。

さて、この「伊奈湖」がどのようなものか気になる方もいらっしゃるかと思います。

Twitter 等で「伊奈湖」と検索してみれば、色々な「伊奈湖」の画像が出てくるでしょう。

終わりに

これで、私の伊奈学園の紹介は終わりとなります。

先ほど述べたように、伊奈学園は広大な面積を持ち、多くの人々が訪れる「マンモス校」です。

今日ご紹介できなかった所や、私自身もまだ知らない所が、この学校にはまだまだたくさんあります。

これからも、伊奈学園についてどんな新しい発見があるのか、私はとても楽しみです。

少しでも伊奈学園に興味を持って頂けたでしょうか？

皆さんがこのプレゼンを楽しんで頂けたのであれば幸いです。

ありがとうございました。【本人和訳】

Möchten Sie zu meiner Schule kommen?

Haruto Kurosawa
Waseda University High School

Liebe Zuschauerinnen und Zuschauer. Möchten Sie zu meiner Schule kommen? Sie möchten wahrscheinlich wissen, was meine Schule überhaupt ist. Zunächst stelle ich mich vor. Mein Name ist Haruto Kurosawa. Ich bin Schüler der Waseda Universitätsoberschule. Heute möchte ich Ihnen unter dem Thema „Möchten Sie zu meiner Schule kommen?“ zwei Charakteristika meiner Schule vorstellen.

Erstens: Jungenschule. Meine Schule ist eine Jungenschule. Wir können solche Schulen in Deutschland nicht finden. Ich habe ein spannendes Beispiel. Bitte sehen Sie diese Fotos an. Was ist das? Das sind Fotos des Sportfestes. Ja, viele Schüler haben Kampfgeist und geben ihr Bestes. Wenn es wenig Schüler gibt, nehmen die Lehrer auch teil. Vor Jahren hat eine Deutsch-Lehrerin an einem interessanten Wettkampf teilgenommen. Der Wettkampf heißt 筋肉番付. Das ist sehr traditionell. Schüler haben ihren durchtrainierten Körper gezeigt.

Zweitens: viel Zeit haben. Zum Beispiel gibt es sehr lange Sommerferien. Wir können circa 2 Monate lang die Ferien genießen. Bitte sehen Sie dieses Material an. Erkennen Sie auf diesem Jahresplan die langen Ferien in meiner Schule? Das erste Semester dauert etwa dreieinhalb Monate. Anders gesagt: die Unterrichtstage stehen zu den Ferien im Verhältnis 2 zu 1. Manche Schüler fahren ins Ausland während der langen Ferien. Jeder in der Schule hat jeweils Sachen, die er macht. Englisch, AG, Hobby ... Ja, ich lerne natürlich Deutsch. Andere Schüler sind nicht so produktiv. Zum Beispiel spielt mein Freund 12 Stunden pro Tag am Smartphone, Nintendo-Switch usw.

Die langen Sommerferien geben uns genug Zeit, an verschiedene Projekten teilzunehmen. Dadurch können wir viele Erfahrungen machen. Zum Beispiel habe ich im letzten Sommer an einem Online-Projekt im Goethe-Institut teilgenommen. In diesem Projekt habe ich einen Artikel in der Schülerzeitung von PASCH geschrieben. Mein Hauptthema war 甲子園, das eines der berühmtesten Baseball-Turniere in Japan ist. Leider hat es im letzten Jahr wegen der Corona-Pandemie nicht stattgefunden.

Nun habe ich eine Frage. Warum sind unsere Sommerferien so lang? Warum gibt es so viel Freizeit? Die Schüler in anderen Schulen müssen sehr hart lernen, um in die Universität zu kommen. Wir können in die Uni ohne Aufnahmeprüfungen kommen. Also haben wir mehr Zeit als Schüler in anderen Schulen.

Ich empfehle Ihnen meine Schule von Herzen. Die Atmosphäre an meiner Schule ist genau so, als ob es ständig eine Feier wie nach der WM in 2014 in Berlin gäbe. Es ist wirklich prima. Jeder, der im letzten oder nächsten März die Mittelschule absolviert hat, kann die Eintrittsprüfung der Waseda Universitätsoberschule machen. Möchten Sie zu meiner Schule kommen?

Ja? Nein? Spaß beiseite!

Vielen Dank für Ihre Aufmerksamkeit!

私の学校、いかがでしょうか？

早稲田大学高等学院（東京都）
3年 黒澤元人

皆さん、こんにちは。「私の学校」に入学してみたいですか？ こう呼び掛けると、もしかすると、そもそも「私の学校」とはなんだ？と思う人もいるでしょう。まずは、私自身の事を紹介します。私の名前は黒澤元人です。私は、早稲田大学高等学院に所属しています。今日は、“「私の学校」に入学してみたいですか？”というタイトルのもと、私の学校の2つの特徴をご紹介します！

1つ目は、男子校ということです。私の学校は男子校なのです。男子校は、ドイツでは見られません。そんな学校らしい、例を挙げたいと思います。この写真を見てください。为什么呢？

これは、体育祭の写真です！ たくさんの生徒が、気迫を見せ、ベストを尽くします。もし、参加する生徒が少ないときには、教員の飛び入り参加もあるんですよ！ 数年前、ドイツ語科の先生も、非常に興味深い競技に参加なさったとか…！ 筋肉番付という企画で、とても伝統があります。生徒たちは、その鍛えぬいた肉体をそこで披露するのです。

2つ目の特徴は、生徒たちにはたくさんの時間があるということです。例えば、夏休みが挙げられます。私たちの夏休みは、約2か月間あります。この資料を見てください。私の学校の休みがどれだけ長いのか、おわかりいただけましたか。1学期は、約3か月半あります。つまり、授業日と休みの日は、おおよそ2対1の割合ということです。長期休みの間には、海外に行く人もいます。それぞれに、それぞれのやることがあります。英語、部活動、趣味…

僕はもちろんドイツ語学習をしています。生徒の中には、それほど有意義な時間を過ごせない人もいます。例えば、僕の友達は、1日にスマートフォンやニンテンドースイッチを利用して、12時間もゲームをしています！

ここで、1つ質問があります。なぜ、私たちの夏休みはこんなにも長いのでしょうか。なぜ、そんなに自由な時間が多いのでしょうか。他の学校の人々は、大学に行くためにかなり勉強しなければなりません。対して、私たちは、大学に入るための入学試験を受けなくても、早稲田大学に行くことができます。これにより、私たちは、他の学校の生徒に比べて、自由な時間が長いのです。

私は、私の学校を皆さんに心の底から、おすすめできます。学校の雰囲気は、ドイツがW杯を制した2014年の、ベルリンのような、素晴らしい雰囲気です。本当に最高なんです！ 今年の3月か、来年の3月に中学校を卒業する人ならだれでも、私の学校の入学試験を受けることができます！！ 私の学校に入学してみたいですか？

どうですか…。なんちゃって！！

ご清聴、ありがとうございました！【本人和訳】

Der Mut, der die Angst durchbricht

Anna Flatscher

Tokyo Gakuei University International Secondary School

Gibt es etwas, wovor ihr Angst habt? Vielleicht habt ihr Angst vor Schlangen oder dass sich eure Träume und Wünsche nicht erfüllen könnten. Es gibt viele Momente in unserem Leben, wo wir Angst vor etwas haben. Der Punkt ist nicht, wie oft wir Angst vor etwas haben, sondern wie wir aus unserer Angst heraus handeln.

Letztes Jahr hatten meine Eltern für mich eine Reise nach Österreich geplant. Ich hatte mich so sehr auf diese Reise gefreut, weil ich lange nicht mehr dort war. Ausgerechnet ein paar Wochen vor meinem Abflug begann sich das Coronavirus zu verbreiten. Zu der Zeit gab es noch wenig Infizierte, dennoch habe ich mich damals entschlossen, diese Reise zu stornieren. Als ich dies meiner Tante in Österreich mitteilte, sagte sie, dass ich die richtige Entscheidung getroffen hätte. Sie meinte, dass viele Leute mich sicherlich böse anschauen würden, weil sie der Meinung wären, dass Asiaten mit dem Virus infiziert seien und dass ich in Österreich nicht willkommen wäre. Das Traurigste war nicht, dass ich die Reise stornieren musste, sondern dass ich plötzlich an einem meiner Lieblingsorte nicht mehr willkommen war.

Zufällig war zu dieser Zeit ein Schulkollege von mir in Italien. Er ging dort schon seit einem halben Jahr in die Schule, doch plötzlich zeigten nun die anderen Leute mit dem Finger auf ihn und nannten ihn „Coronavirus“. Er schrieb uns damals, wie traurig und schockiert er sei. Er hatte überhaupt nichts mit dem Virus zu tun, aber trotzdem mieden ihn die Leute, und zwar einfach nur wegen seines asiatischen Aussehens.

Ich verstehe schon, wie viel Angst die Leute vor dem Virus haben, allerdings hatten weder ich noch mein Schulkollege etwas mit dem Virus zu tun und wir waren auch nicht infiziert. Die Angst vor einem Virus hat die Leute dazu gebracht, unschuldige Menschen nur wegen ihres Aussehens zu meiden.

Aus dieser Erfahrung habe ich gelernt, dass Angst viel Leid verursachen kann. Vorurteile, die aus Angst entstehen, verletzen andere Menschen und tragen auch nicht zur Problemlösung bei. Vorurteile tragen vielmehr dazu bei, dass sich die Gräben zwischen den Menschen vertiefen.

In der Pandemie hat eine Organisation in Japan einmal Masken und Desinfektionsmittel nach China geschickt. Später, als Japan dann stärker von der Pandemie betroffen war, hat eine Organisation in China Masken und Desinfektionsmittel als Dankeschön nach Japan geschickt. Sich gegenseitig zu helfen, statt einander aus Angst auszugrenzen, das ist der richtige Weg, um Probleme schnell und effektiv zu lösen.

Wieso existieren überhaupt solche Ausgrenzungen? Der Virus und die Zugehörigkeit zu einem bestimmten Volk haben nichts miteinander zu tun. Ich vermute, dass solch diskriminierende Handlungen nur aus Angst entstehen, weil man zu wenig Mut hat, anderen Menschen zu helfen und sich seiner Angst zu stellen. Deswegen attackieren viele Leute andere Menschen aus einem anderen Land oder Kontinent.

Das Wichtigste ist, dass wir die wahre Ursache des Problems erkennen und den Mut aufbringen, gegen die eigene Angst anzukämpfen. Andere sinnlos zu attackieren verletzt nur die Menschen und das hilft überhaupt nicht, das Problem zu lösen. Wenn wir uns alle ohne Vorurteil die Hand geben und unser Wissen teilen, können wir die Corona-Pandemie und viele andere Probleme lösen. Dann können wir eine bessere und friedlichere Welt erschaffen. Lasst uns nicht andere Länder oder andere Leute ausgrenzen, sondern unser Wissen tauschen, so dass wir alle ein harmonisches und erfolgreiches Leben führen können!

不安を打ち破る勇気

東京学芸大学附属国際中等教育学校（東京都）

3年 フラッチャー 杏奈

皆さんには怖いものや不安なことはありますか？ ひょっとしたら蛇が怖かったり、自分の夢が叶わなかったらどうしよう、といった不安があったりするかもしれません。私達の人生には、なにかを不安に思う瞬間がたくさんあります。しかし大切なのは、私達がどれだけたくさんの不安に襲われるかではなく、私達がその不安にどのように対処するか、ということです。

昨年、私の両親は私のオーストリア旅行を計画してくれました。私は長い間オーストリアに行っていなかったのですが、その旅行が大変楽しみでした。しかし、よりによって私の出発の2週間ほど前に、予想もしていなかった新型コロナウイルスの流行が始まりました。当時、まだ新型コロナウイルスにかかった人は少なかったのですが、その旅行を取りやめることに決めました。それをオーストリアにいる私の叔母に伝えると、叔母はその決断は正しかったと言ってくれました。彼女が言うには、多くの人々はアジア人が新型コロナウイルスに感染していると思っており、アジア人はコロナにかかっているに違いないという考えから多くの人が私のことをきっと白い目で見るとし、私はオーストリアでは歓迎されないだろうから、とのことでした。私が一番悲しかったのは、旅行をキャンセルせざるを得なくなったことではなく、オーストリアは私が大好きなところであるにもかかわらず、突然歓迎されなくなってしまったことでした。

偶然、そのころ、私の学校の同級生がイタリアにいました。彼はそこで半年間学校に通っていたのですが、突然人々が彼を指さし、「コロナウイルス」と呼び始めたのです。当時、彼はそれがどんなに悲しく、ショックなことだったか、と手紙に書いていました。彼はコロナウイルスとは無関係だったにもかかわらず、人々は彼のアジア的な外見だけを見て単純に彼を避けたのです。

もちろん、人々がどれだけ新型コロナウイルスを恐れていたのか、私にも理解できます。しかし私と私の同級生はどちらもウイルスとは無関係であり、私達はどちらもコロナに感染していませんでした。ウイルスへの恐怖心が、単に外見だけで無関係の人間を避けるように人々を変えてしまったのです。

この経験から私は、不安が多く苦しみを生み出すということを学びました。不安からくる偏見は、他人を傷つけるだけで、問題の解決へとつながりません。むしろ偏見は、人々の間の溝をますます深めるだけです。

まだ日本で新型コロナウイルスが拡大する前、日本のある団体がマスクと消毒液を中国に送りました。その後、日本で新型コロナウイルスが流行した際、中国の団体がマスクと消毒液をお礼として日本へ送ってくれました。お互いが不安のせいで距離を置くのではなく、互いに助け合う事こそが問題を素早く且つ効果的に解決する正しいやり方なのです。

そもそもなぜ心の隔たりが生まれてしまうのでしょうか。ウイルスはある特定の人々に関係したことでありません。このような差別的な行動は、他者を助けるための勇気が人々には足りず、自身の不安に直面することに対する恐怖からきているのだと私は推測します。

最も大事なことは、私達が問題の真の原因を知り、自身の不安を払拭するための勇気を持つことです。他の人を根拠もなく攻撃することはその人々を傷つけるだけで、何の問題解決にもなりません。私達が偏見を持たずに他人に手を差し伸べ、私達の知識を共有し合うことで、私達は新型コロナウイルスのパンデミックや他の多くの問題を解決することができます。そうすることで、私達はより良く、より平和な世界を創造することができます。他の国々や他国の人々と距離を置くのではなく、知恵を交換し、調和のとれた、より素晴らしい人生を私達皆で送りましょう。【本人和訳】

Weihnachtsgeschenk aus Deutschland

Honoka Nishi
Katholische Schule Herz-Jesu, Fuji

„Frau Nishi, dieses Paket kam aus Deutschland.“ Letztes Weihnachten habe ich ein Paket von meiner Gastmutter erhalten, die in Deutschland lebt. Ich war begeistert! Aber ich war beim Öffnen sehr überrascht, denn die Schachtel war voller Walnüsse und Erdnüsse mit Schalen:

„Wollte mir die Gastmutter viele Erdnüsse und Walnüsse geben? – Nein!“
Ich durchwühlte die Nüsse in der Schachtel und schließlich habe ich ein Geschenk gefunden!

Ich wunderte mich, warum meine Gastmutter das getan hatte. Zuerst fragte ich mich, ob meine Gastmutter mir einen Streich spielen wollte. Aber dann sah ich, dass einige Erdnussschalen zerschmettert waren und ich bemerkte, dass die Wal- und Erdnüsse das Geschenk beim Transport vor einem Aufprall schützten.

Im Gegensatz dazu war das Weihnachtsgeschenk, das ich ihr schickte, durch Plastikdämpfung geschützt. Wenn das Geschenk in ihrem Haus ankommt, wird die Plastikdämpfung zu umweltschädlichem Müll. Die Nüsse kann man jedoch essen. Sogar die Schalen der Erdnüsse und Walnüsse können sinnvoll verwertet werden. Es verschmutzt also nicht die Umwelt.

Durch diesen Austausch von Weihnachtsgeschenken wurde ich mir wieder einmal der Unterschiede im Umweltbewusstsein zwischen Deutschen und Japanern klar.

Die Deutschen haben ein sehr hohes Bewusstsein für die Umwelt. Meine Gastmutter verwendete Nüsse als Polstermaterial. Sie benutzte keinen Müll, der die Natur zerstören würde.

In Japan war es in der Vergangenheit üblich, mit der Natur zu leben. Im ehemaligen „Satoyama“ Japans wurden die Berge und die reiche Natur von den Menschen gepflegt. Ich denke, es ist wichtig, eine Gesellschaft zu schaffen, in der alle Lebewesen die Segnungen der Natur für eine lange Zeit genießen können.

Zu diesem Zweck müssen wir eine auf Recycling basierende Gesellschaft anstreben, die Abfall reduziert und begrenzte Ressourcen immer wiederverwertet. Anstatt Produkte zu konsumieren, müssen wir in unserer Verantwortung als Mensch darüber nachdenken, welche Maßnahmen wir als Konsument ergreifen können, um die Natur zu schützen.

Ich hoffe sehr, dass so viele Menschen wie möglich handeln werden, um eine Gesellschaft im Einklang mit der Natur zu schaffen und dass eine nachhaltige Erde verwirklicht wird.

Ich habe ein sehr schönes Weihnachtsgeschenk aus Deutschland bekommen.
Dankeschön, Gastmutter!

ドイツからのクリスマスプレゼント

不二聖心女子学院高等学校（静岡県）

3年 西 洸

「西さん、ドイツからお荷物が届きました！」去年のクリスマス、ドイツ在住のホストマザーから小包を受け取りました。私は興奮しました。しかし、箱はクルミとピーナッツでいっぱいでした。私は非常に驚きました。

「ホストマザーは私にピーナッツとクルミをたくさん送りたいかったのだろうか？」「いや、そんなはずはない！」私は箱の中のクルミとピーナッツをかき分けました。そしてついに私はプレゼントを見つけました。

なぜホストマザーがこんなことをしたのか不思議に思いました。最初はホストマザーのいたずらかと思いました。しかし、私はピーナッツの殻が衝撃によって粉々になったのを見て、クルミとピーナッツが衝撃から贈り物を保護したことに気づきました。ホストマザーは緩衝材としてピーナッツとクルミを使用したのです。

一方、私が彼女に送ったクリスマスプレゼントは、プラスチック製のクッションによって保護されていました。私の贈り物が彼女の家に着くと、そのプラスチック製のクッションは環境汚染廃棄物になります。しかし、ホストマザーが使ったピーナッツやクルミは食べられます。また、ピーナッツとクルミの殻を土に戻すことができるため自然環境を汚染することはありません。

このクリスマスプレゼントの交換を通して、ドイツ人と日本人の環境意識の違いを再認識しました。ドイツ人は環境に対する意識が高いです。現に、私のホストマザーは、緩衝材として木の実を使用しました。彼女は自然破壊をするゴミとなるような物資を使用しませんでした。

かつて日本では自然と暮らすのが一般的でした。かつての日本の「里山」では、山々と豊かな自然が人々に愛されていました。このようにすべての生き物が自然の恵みを長く享受できる社会をつくるのが大切だと思います。

そのためには、廃棄物を減らし、限られた資源を大事に使用するリサイクル社会を目指していかなければなりません。製品を消費するだけでなく、消費者としての私たちが自然を守るためにどのような対策を講じることができるかということについて、人間の責任として考えなければなりません。一人でも多くの人が自然と調和した社会をつくり、持続可能な地球が実現することを願っています。

私はドイツからとても素敵なクリスマスプレゼントを受け取りました。
ホストマザー、ありがとう！【本人和訳】

Die bittere Realität versteckt in süßer Schokolade

Haruka Takahara
Shibuya Senior High School

Heute bin ich hier, um euch eine Sache über Schokolade zu erzählen.

Esst ihr gern Schokolade? Und ich weiß, es schmeckt euch. Denn die Japaner konsumieren die viertmeiste Schokolade und die Deutschen die meiste Schokolade der Welt.

Als ich klein war, sagte meine Mutter immer zu mir, wenn ich in der Öffentlichkeit eine wichtige Geschichte hörte: „Wenn du ruhig bleibst und ein braves Mädchen bist, gebe ich dir später Schokolade“. Deshalb war ich die meiste Zeit ein „gutes Mädchen“, weil ich Schokolade wollte. Allerdings hatte ich noch keine Ahnung, woher diese Schokolade kam. Die Schokolade, die ich als Belohnung für ein paar Stunden Stille erhielt, bestand zum größten Teil aus Blut und Tränen gleichaltriger Kinder aus dem fernen Afrika.

Den „glücklichen Raum voller Schokolade“, von dem man als Kind einmal geträumt hat, gibt es in Kakaoplantagen nicht. Stattdessen arbeiten kleine Kinder verzweifelt in einem rauen Arbeitsumfeld. Außerdem: ironischerweise würden die Kinder den Kakao, den sie verzweifelt angebaut haben, nie als süße Schokolade genießen.

Während meines Austauschjahres in Deutschland habe ich an der Eine-Welt-AG bzw. Fair-Trade-AG teilgenommen. Der Grund ist einfach, dass ich nicht wusste, was Fair Trade ist.

Die AG unterstützt den fairen Handel durch den Verkauf von entsprechenden Produkten wie Schokolade. Am ersten Tag erzählten mir Mitglieder der Eine-Welt-AG: „Fairer Handel ist eine Aktivität, die darauf abzielt, die Lebensgrundlagen und die Unabhängigkeit von Produzenten und Arbeitern in Entwicklungsländern zu verbessern.“ So können die Kinder in solchen Ländern beispielsweise zur Schule gehen, anstatt zu arbeiten. Während ich mich bei der AG beteiligte, wurde ich über einige schockierende Fakten informiert. 152 Millionen Kinder weltweit werden zu Kinderarbeit gezwungen. In Afrika betrifft es jedes fünfte Kind. Sie werden ausgebeutet und arbeiten quasi den ganzen Tag. Erschwerend kommt hinzu, dass das Arbeitsumfeld schlecht ist. Sie können jederzeit, aufgrund der schlechten Arbeitsbedingungen, sterben. Eines der Ziele der SDG ist die Abschaffung der Kinderarbeit bis 2030. Laut der Internationalen Arbeitsorganisation (IAO) sieht es jedoch leider danach aus, dass es fast unmöglich ist, diese Ziele zu erreichen.

Nach meiner Rückkehr aus Deutschland gab es in meiner Englischklasse zufällig ein Projekt zum Thema Kinderarbeit. Was können wir als Teenager tun? Wir dachten ernsthaft nach und führten eine lebhaft Diskussions. Ausgehend von den Aktivitäten der Eine-Welt-AG habe ich den Mitgliedern der Gruppe den Fairen Handel vorgestellt. Wir fanden heraus, dass Themen wie Kultur, Konflikt, Armut und Bildung kompliziert miteinander verwoben sind. Aber zu diesem Zeitpunkt konnten wir keine effektive Lösung finden.

Ein paar Tage später erhielt ich nach dem Unterricht eine Nachricht von einem der Mitglieder. Die Person sagte: „Ich habe die von Dir erwähnte Fairtrade Schokolade gekauft.“ Ich habe das große Potenzial in diesem kleinen Raum gespürt. Ich bin nur ein Siebenmilliardstel der Welt. Ich dachte, selbst wenn ich allein wäre, würde es ausreichen, einen Löffel Wasser auf einen Waldbrand zu streuen. Aber die Macht, mit der ich alleine die Welt nicht verändern kann, hat sich verdoppelt. Was ist, wenn sie, mithilfe von mehr Menschen noch größer wird? Selbst die kleinste Kraft kann die Welt verändern, wenn sie gesammelt wird. Lassen Sie uns zusammenarbeiten und gemeinsam etwas bewirken, damit weniger Kinderarbeit auf der Welt passiert.

Neues Wissen erlangen. Das in die Tat umsetzen, was man gelernt hat und es mit anderen teilen. Auf diese Weise wird es ausgebeuteten Kindern auf der ganzen Welt wieder möglich sein zu lächeln. Deswegen wünsche ich mir eine Gesellschaft, in der Schokolade für alle Menschen auf der Welt gleich süß ist.

甘いチョコレートに隠された苦い現実

渋谷教育学園渋谷高等学校（東京都）

3年 高原 良佳

私は今日、チョコレートに関するあるひとつのことを伝えるためにここにあります。

皆さん、チョコレートはお好きですか？ 私は知っていますよ、皆さんがお好きなことを。世界で4番目にチョコレートを消費しているのは日本人ですし、1番はドイツ人だからです。

幼い頃、母が私に外出先で大切なお話を聞く時はいつも、「静かにいい子にしていたら、後でチョコをあげる」と言っていたのを覚えています。だから私はチョコレート欲しさに、たいていの場合「いい子」にしていました。しかし、当時の私はそのチョコレートがどこから来ているかなど知りませんでした。私が数時間静かにしていることの対価として受け取っていたチョコレート。それは遠くアフリカに住む、同じ歳ほどの子供たちの血と涙で出来ていたのです。人々が子供の頃に一度は夢見たであろう、「チョコレートに囲まれた幸せな空間」は、カカオプランテーションには存在しません。そこでは代わりに、小さな子供たちが過酷な労働環境のもとで働いています。そして、彼らは、必死に育てた重くて苦いカカオを甘いチョコレートとして楽しむことはないでしょう。

私はドイツ留学中、「ひとつの世界クラブ（フェアトレードクラブ）」に所属していました。このクラブは購買でチョコレートをはじめとしたフェアトレード商品を扱うことでフェアトレードを支援していました。初日にクラブのメンバーがフェアトレードについて私に教えてくれました。フェアトレードは、公正な取引という意味で、途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す運動です。これによって、例えば、子供達が労働の代わりに学校に行けるようになります。クラブでの活動中、私は衝撃的な事実を知らされました。世界では1億5200万人もの子供たちが児童労働を強いられていたのです。アフリカではその割合は5人に1人にもなります。彼らは低賃金で一日中、厳しい労働環境下で働かされます。いつ命を落としてもおかしくありません。

SDGsのゴールの一つとして、児童労働の2030年までの撤廃が掲げられています。しかし、残念ながら、到底届かないだろうということが国際労働機関（ILO）によって現在予想されています。

留学からの帰国後、偶然にも英語の授業で児童労働について学習する機会がありました。高校生の私達に何が出来るだろうか？ 私達なりに必死に考え、熱く議論を交わしました。私はフェアトレードクラブでの活動を基に、グループのメンバーにフェアトレードを紹介しました。私達は児童労働問題が、文化や紛争、貧困、教育などと複雑に絡み合っていることは分かりました。しかしながら、私達はその時に効果的な解決策を導き出すことは出来ませんでした。

数日後、そのメンバーの一人からメッセージが届きました。「この間、あなたが話していたフェアトレードのチョコ買ってみたよ。」と彼女は言いました。私はこの小さな広がり大きな可能性を感じました。「私は世界のたった70億分の1である。私一人が活動しても、山火事にスプーン1杯の水をかけるようなものだろう。」と思っていました。しかし、この時、一人では世界を変えられないような力が倍になったのです。さらに倍に広がればどうでしょうか？ほんの些細な力でも集まれば、世界を変えられるのです。世界で児童労働が減るように、一緒に働き、一緒に違いを生み出しましょう。

「知らないことを知る。知ったことを行動にうつす。そして、伝える。」そうすれば、世界の子供達の笑顔が増えるのではないのでしょうか。世界中のすべての人にとって甘いチョコレートがある社会を願って。【本人和訳】

Auslandsaufenthalt während der Pandemie

Yui Kono

Kanagawa Prefectural Yokohama Senior High School of International Studies

Was können wir wegen der COVID-19 Pandemie nicht machen? Einkaufen, essen, reisen ... Einmal konnten wir sogar nicht in die Schule gehen. Das traurigste Ereignis für mich ist, nicht im Ausland Deutsch lernen zu können. Das Austauschprogramm mit unserer Partnerschule in Bayern, an dem ich teilnehmen wollte, wurde abgesagt. Und niemand weiß, ob man in Zukunft ins Ausland gehen kann. In der heutigen Situation sollten wir unsere Denkweise über einen Aufenthalt im Ausland ändern.

Überhaupt ist das Lernen im Ausland nicht unentbehrlich, um eine Sprache zu erlernen. Natürlich ist es eine Abkürzung, um eine Fremdsprache zu lernen und das Leben im Ausland ist ein wertvolles Erlebnis. Jedoch ist der wichtigste Faktor die eigene Bemühung. Viele Lernende können ohne Aufenthalt im Ausland fließend eine Fremdsprache sprechen. Also sollten wir jetzt das tun, was wir können, anstatt darüber zu klagen, nicht ins Ausland gehen zu können.

Ein „Online-Auslandskurs“ wäre zum Beispiel eine gute Ersatzmöglichkeit, um trotz der Pandemie Kontakt zum Ausland herzustellen. Dieses Programm kam zustande, als sich die Internet-basierten Aktivitäten nach der Pandemie ausweiteten. Es gibt keinen Grund, es nicht zu nutzen, weil wir mit Lehrern und Schülern auch von zu Hause aus gut kommunizieren können. Ein Vorteil ist, dass der Lehrplan flexibel ist. Deshalb können wir unsere Zeit effektiver nutzen. Schüler können an einigen Vorlesungen von manchen Universitäten teilnehmen und sie können mehr lernen. Vielleicht haben die Schüler die Möglichkeit, Vorlesungen auf der ganzen Welt zu besuchen, zum Beispiel in Deutschland, China oder den USA. Ein „Online-Auslandskurs“ kostet weniger als normale Kurse und das bedeutet, dass dadurch mehr Menschen lernen können. In den letzten Jahren haben Universitäten damit angefangen, ihre Vorlesungen kostenlos zu streamen und die Plattformen, auf denen Lernende im Internet Aufsätze lesen können, nehmen zu. Das bedeutet, dass die Umgebung, die man zum Lernen im Internet nutzt, schon eingerichtet ist. Ich denke, dass wir mit gutem Nutzen des Internets mehr Wissensbereiche kennenlernen können. Zudem kann ein „Online-Auslandskurs“ nach der Pandemie ein nützliches Lernmittel sein. Wir sollten von dem neuen und effektiven Weg Gebrauch machen, oder?

Natürlich hat ein „Online-Auslandskurs“ einige Probleme, zum Beispiel den Zeitunterschied oder die Internetverbindung. Diese Probleme sollten verbessert werden. Es gibt viele Probleme, für die niemand unter der Pandemie eine Lösung hat, und wir müssen uns vorsichtig vorantasten. Aber wenn es einen Weg gibt, unsere Ziele oder Träume zu erreichen, müssen wir es versuchen. Als nur eine von vielen Optionen halte ich Online-Unterricht für sehr effektiv.

Ich habe über die Nützlichkeit des Online-Unterrichts gesprochen, aber es gibt viele Tatsachen, die man nicht lernen kann, ohne ins Ausland zu gehen. Doch anstatt zu beklagen, dass wir es nicht schaffen, sollten wir unser Bestes tun und unserem Ziel näher kommen. Lasst uns in der Hoffnung, dass wir eines Tages wieder frei reisen und im Ausland lernen können, weiter hart arbeiten.

パンデミック中の留学のあり方について

横浜国際高等学校（神奈川県）

3年 河野 結

コロナウィルスの流行によって、私たちができなくなったことはなんでしょうか。

買い物、会食、旅行、、、一時は学校にも行けませんでした。

私にとって一番悲しかったことは留学ができなくなったことです。私が参加予定だったバイエルンにある姉妹校との交流プログラムは中止され、今後も海外に行けるかどうかはわからない状況です。こうした状況下で、私たちは留学に関する認識を変えるべきではないでしょうか。

そもそも言語の習得のために留学は必須ではありません。もちろん留学は言語習得の近道になるかもしれないし、現地に行って文化を肌で感じることは貴重な体験になるでしょう。しかし結局、最も重要なのは本人の努力です。海外に行かなくても、外国語を習得している人は沢山います。ですから留学ができない現状を嘆いて終わりにするのではなく、今できることを最大限すべきだと思います。

例えば、パンデミック中に外国と関わるための選択肢として「オンライン留学」があります。これはコロナ禍でインターネットを使った活動が拡大する中で登場しました。自宅にいながら海外にいる教授や学生たちと交流を持てる場として、これを活用しない手はないでしょう。オンライン留学のメリットとして、自由度が高く、時間を有効に使って学べることがあげられます。複数の大学の講義を受け、より沢山の学びを得ることが出来ます。ドイツ、中国、アメリカなど、国を横断して講義を受けることもできるでしょう。また実際に他国に行くよりも費用が安くすむ場合もあるため、より多くの人に学びの扉が開けたといえます。近年、大学による講義映像の無料配信や、ネット上で論文を読めるプラットフォームの整備なども行われています。人々がインターネットを使って学習する環境はすでに整っているといえます。インターネットをうまく活用することで、より多くの分野に関する知識を得られると思います。このオンライン留学という学習の形はパンデミックが去った後も有用なものです。私たちはこの新しく効率的な手段を最大限活用すべきではないでしょうか？

もちろんオンライン留学には課題もあります。時差やネット環境など、デメリットや改善すべき問題もあります。誰も正しい対応方法を知らないパンデミック中の課題について、手探りで改善していかねばならないことも多いです。しかし少しでも自分の目標や夢に近づける方法があるなら、試してみるべきだと私は思います。その選択肢の一つとして、やはりオンラインを活用した授業はとても有効だと思います。

ここまでオンラインの有用性について話しましたが、やはり実際に現地に行かないとわからないこともたくさんあると思います。しかし今それができないことに対して嘆くのではなく、できることを最大限にやって、目標へと近づいていくべきです。いつかまた旅行や留学が自由にできるようになる日を信じて、頑張り続けましょう。【本人和訳】

Wertvoller als das Leben?

Satoshi Mitsuhashi
Dokkyo Saitama High School

Sicherlich haben Sie schon von Welterbestätten gehört. Das sind besondere Orte, die für zukünftige Generationen geschützt und erhalten werden sollen. Sie werden von der UNESCO ausgewählt und zertifiziert. Weltweit gibt es mehr als 1000 Welterbestätten.

Wegen ihrer ungewöhnlichen Fauna wird Japan seit Jahren für eine Inselgruppe zwischen Kyushu und Okinawa zum Weltnaturerbe vorgeschlagen. Am 10. Mai dieses Jahres hat das UNESCO-Beratungsgremium die Aufnahme dieser Inselkette in die Liste des Weltnaturerbes bestätigt. Nach der Registrierung wäre es das fünfte Weltnaturerbe in Japan.

Amami Oshima in der Präfektur Kagoshima ist eine dieser Inseln und berühmt für ihre seltenen einheimischen Tierarten wie die Amami-Kaninchen. Auf der Insel gab es früher keine fleischfressenden Tiere wie zum Beispiel Katzen. Katzen sind keine natürliche Tierart der Insel, sondern wurden von Menschen mitgebracht. Viele Katzen sind jetzt allerdings verwildert und es wird gesagt, dass sie die Ökologie der Insel beeinflussen, indem sie die einheimischen Tiere bis zum Aussterben jagen.

Das Umweltministerium hat damit begonnen, diese Katzen zu fangen, um das Ökosystem auf der Insel zu erhalten. Sie haben diese wilden Katzen als schädlich bezeichnet und sie Noneko genannt. Es wird gesagt, dass es zwischen 600 und 1200 Noneko auf der Insel gibt und man versucht, in den nächsten 10 Jahren jährlich 300 Noneko in Fallen zu fangen. Die gefangenen Noneko werden in Tierheime gebracht und zur Adoption angeboten. Wenn sie nicht adoptiert werden, werden sie getötet.

Nach dem neuen Tierschutzgesetz in Japan ist es illegal, streunende Katzen in freier Wildbahn zu töten. Diese Katzen nennt man Nora Neko. Die Katzen auf Amami Oshima wurden jedoch als schädliche Tiere bezeichnet und als solche eingestuft, da sie den einheimischen Tierbestand der Insel bedrohen. Das Umweltministerium hat die Bezeichnung Noneko geschaffen, um die Ausrottung dieser Katzen zu erleichtern und zu beschleunigen.

Eine Tierschutzgruppe meint, selbst wenn man Hunde und Katzen tötet, wird das Problem nie gelöst. Sie glauben auch, dass die meisten Amami-Kaninchen nicht von Noneko, sondern von Autos getötet werden.

Hauptziel der UNESCO-Welterbe Mission ist es, das Natur- und Kulturerbe dieser Orte zu schützen. Um jedoch nur den Welterbe-Titel zu erhalten, ist das Töten einer großen Anzahl von Katzen sehr fragwürdig. Können wir nicht Wege finden, um sowohl Katzen als auch den einheimischen Tieren das Leben zu ermöglichen? Darüber hinaus ist das Aufstellen einer großen Anzahl von Fallen mit großem finanziellen Aufwand verbunden. Ich glaube, das Geld könnte besser zur Konservierung des gesamten Wildbestandes der Insel verwendet werden. Schließlich waren es doch wir Menschen, die die Katzen auf der Insel eingeführt haben.

命よりも大切なこと？

獨協埼玉高等学校（埼玉県）
2年 三ッ橋 慧

みなさんも世界遺産についてご存知だと思いますが、世界遺産とは、次の世代のために守られ、保存されるべき特別な場所で、その選定、認定はユネスコが行います。現在、認定された世界遺産は世界中で1000以上あります。

日本は何年にもわたって、個性的な生態系を有する、九州と沖縄の間に位置する島々（奄美大島、徳之島、沖縄島北部、西表島）を世界遺産の候補地として、推薦してきました。今年の5月10日、ユネスコの諮問委員会は、この島々を世界遺産の一覧表に記載するのにふさわしいとしました。もし世界遺産に正式に登録されれば、日本では5番目の世界自然遺産となります。

鹿児島県の奄美大島は、これらの島々の一つで、アマミノクロウサギなどの希少な在来動物たちがいることで有名です。もともと奄美大島には、猫などの肉食動物はいませんでした。猫は島の在来種ではなく、人間によって島に持ち込まれた外来種です。現在、島にはたくさんの野生化した猫たちがいて、その猫たちが在来種を襲い、島の生態系を破壊するおそれがあると言われています。

環境省は、島の生態系を守るために、これらの猫を捕獲する取り組みを始めました。これらの野生化した猫を害獣とし、さらにノネコという名前を付けて、区別しました。島には600から1200匹のノネコがいるとされ、10年間で年間300匹のノネコを罠で捕獲する試みが行われています。捕まえられたノネコは保健所に連れていかれ里親を探しますが、里親が見つからなければ、殺されます。

新しく施行された日本の動物愛護法によると、ノラネコと呼ばれる野生の猫を殺すことは違法行為です。しかし、奄美大島の猫たちは、もともと島に住む在来種の動物たちの生命を脅かす、危険な動物というレッテルを貼られ、分類されてしまっています。環境省は、これらの猫たちの駆除を容易に、かつ迅速に行うため、ノネコという名前をつけたのです。

しかし、犬や猫を殺すだけではこの問題は解決しない、と動物愛護団体は考えます。また、アマミノクロウサギの多くは、ノネコではなく、交通事故の犠牲になって死んでいるという事実もあります。

ユネスコ世界遺産の主な目的は、これらの場所の自然や文化遺産を守ることにあります。しかし、その世界遺産という肩書を得るために、多くの猫たちの命が奪われてしまうことには、首をかしげてしまいます。希少動物たちと猫たちが共生する方法はないのでしょうか。それに加えて、たくさんの罠を仕掛けるには、多額の費用もかかります。それらの費用を島の野生動植物の保護のために使うほうがいいと思います。もともと島に猫をつれてきたのは、僕たち人間なのです。 【本人和訳】

第 2 3 回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト
第 1 部本選審査用紙

氏名		部門	第 1 部	登壇順	
ローマ字					

発音・イントネーション・流暢さ	
Aussprache der Einzellaute (単音の発音)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Prosodie (イントネーション、強勢、音長)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Rhythmus (流れ)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
言葉の明瞭さ・間の取りかた・非言語表現	
Verständlichkeit (言葉の明瞭さ)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Pausen (間の取りかた)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Mimik und Gestik (視線・表情・ジェスチャー)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
全体的な印象	
Textverständnis (テキストの理解度)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Gesamteindruck (熱意・自信・独創性)	1 - 2 - 3 - 4 - 5

Gesamtpunkte

合計 _____ / 40

Kommentare (コメント)

採点者サイン(Name) _____

第 2 3 回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト
第 2 部本選審査用紙

氏名		部門	第 2 部	登壇順	
ローマ字					

<i>Aussprache und Vortrag (発音と発表)</i>	
Aussprache und Prosodie (単音、抑揚、強勢、音長、リズム)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Verständlichkeit (言葉の明瞭さ)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
<i>Textqualität (テキストの質)</i>	
Textaufbau, Kohärenz (論理的構成・わかりやすさ・つながり)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Wortschatz: Spektrum, Angemessenheit (語彙: バリエーション・適さ)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Grammatik: Spektrum, Korrektheit (文法: バリエーション・正しさ)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
<i>Visuelle Unterstützung (ジェスチャー・ヴィジュアル資料)</i>	
Gestik und Mimik (間の取り方・視線・表情・ジェスチャー)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Gestaltung der Visualisierungshilfe (資料のデザイン)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Einbeziehung der Visualisierungshilfe (資料の活用方法)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
<i>Inhalt (内容)</i>	
Einleitung (Aufmerksamkeit lenkend? Übersicht gegeben?) (序論: 注意を引くか・構成を明示したか)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Hauptteil (Gute Beispiele? Gut gegliedert?) (本論: 例が適切か・構成は適切か)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Schluss (Gut zusammengefasst? Überzeugend?) (結論: 要点がまとめられているか・説得力があるか)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Gesamteindruck (Einsatz, Selbstvertrauen, Originalität) (全体的な印象: 熱意・自信・独創性)	1 - 2 - 3 - 4 - 5

Kommentare (コメント)

合計 / 60

採点者サイン (Name) _____

第 2 3 回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト
第 3 部本選審査用紙

氏名		部門	第 3 部	登壇順	
ローマ字					

Aussprache und Vortrag (発音と発表)	
Aussprache und Prosodie (単音、抑揚、強勢、音長、リズム)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Verständlichkeit (言葉の明瞭さ)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Gestik und Mimik (間の取り方・視線・表情・ジェスチャー)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Textqualität (テキストの質)	
Textaufbau, Kohärenz (論理的構成・わかりやすさ・つながり)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Wortschatz: Spektrum, Angemessenheit (語彙: バリエーション・適切さ)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Grammatik: Spektrum, Korrektheit (文法: バリエーション・正しさ)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Inhalt (内容)	
Einleitung (Aufmerksamkeit lenkend? Übersicht gegeben?) (序論: 注意を引くか・構成を明示したか)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Hauptteil (Gute Beispiele? Gut gegliedert?) (本論: 例が適切か・構成は適切か)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Schluss (Gut zusammengefasst? Überzeugend?) (結論: 要点がまとめられているか・説得力があるか)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Gesamteindruck (Einsatz, Selbstvertrauen, Originalität) (全体的な印象: 熱意・自信・独創性)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Gespräch (質疑応答)	
Sprache (言葉は明瞭か)	1 - 2 - 3 - 4 - 5
Inhalt (内容)	1 - 2 - 3 - 4 - 5

Kommentare (コメント)

合計 / 60

採点者サイン (Name) _____

日本人なのにドイツ語ラップ？
ドイツ育ちの日本人ラッパーBlumioのヒップホップSHOW

BLUMIO

(ブルーミオ)



blumio.japan@gmail.com

生年月日：1985年2月16日

出身：ドイツ・デュッセルドルフ

ドイツ生まれドイツ育ちの日本人ラッパー。

チャームポイントはモヒカンと丸メガネ。

ドイツのラップシーンでは知らない者が

いない Blumio が活動の拠点を日本に移し、ポジティブでスキルフルな日本語ラップでシーンに挑む。

経歴：

<2007年～2015年>

ドイツ初の日本人ラッパーとして4枚のソロアルバムをリリース。主にストリート系ラッパーが人気だった中、ポジティブで楽しい曲調で注目を浴びる。

数々の人気曲をリリースする中、世界平和を歌った代表曲「Hey Mr. Nazi」のミュージックビデオは、数ヶ月に渡ってドイツのMTVビデオチャートで1位を獲得し、Youtubeで1,700万回以上再生された。

さらに2012年からはドイツYAHOO社との共同企画として6年に渡りニュースをラップで伝えるインターネット番組「Rap da News」を配信。

ドイツ、オーストリア、スイスを回るライブツアーを4度行い、2014年にはデュッセルドルフ・シンフォニックオーケストラと、ラップとクラシックを融合させたコンサートをデュッセルドルフ・トーンハレにて開催。

<2016年～>

日本でスターになりたいという長年の夢を叶えるために、活動拠点を日本に移し日本語ラップを始める。音楽プロデューサーのShin Sakiuraや2Soulと知り合い曲作りに取り組む。

Youtubeで日本語のミュージックビデオを数作公開し、2018年11月にはデビューミニアルバム「でも」をリリースする。

2019年にはドイツ文化センターのゲーティンスティチュートとのコラボ企画BLUMIO x GOETHEがスタート。ドイツ語と日本語でラップをしながらドイツと日本の文化を比べるYoutube企画。2021年には続編も企画中。

2020年1月に公開されたBlumioが大好きな日本人ラッパーをものまねする動画がYoutubeにて200万回以上再生され、日本のラップシーンで大きな注目を浴びる。

さらに有名ユーチューバー「ブライアン」に向けた曲「ブライアンへ」が400万回以上再生される。

現在はファンとのコラボアルバム「MINNANO UTA'z」を製作中。ファンがお題としてコメントした曲のタイトルを実際の曲にして公開するという企画だ。

形にとらわれず、クリエイティブなアイデアに挑戦し続けるBlumioのラップから今後も目が離せない。

■表彰について

<個人賞>

各部門の第1～3位に賞状・副賞(順位に応じて、キーボード付き iPad、ゲーテ受講券等)を贈呈します。

賞	副賞
第1位：最優秀賞	キーボード付き iPad
第2位：優秀賞	ゲーテ受講券（通学またはオンライン）
第3位：獨協大学学長賞	電子辞書ドイツ語モデル

* iPad=Apple 社製タブレット

* ゲーテ受講券（通学またはオンライン）=ゲーテ・インスティトゥートが開講するドイツ語講座

<審査員特別賞>

本選出場者の中から、第1～3位受賞者を除き、特に敢闘した1名に賞状・副賞（電子辞書ドイツ語モデル）を授与します。

<学校賞>

予選参加・本選での結果を考慮し、1校に賞状・副賞（ポータブルブルーレイプレーヤー）を授与します。

<公募制推薦入試出願資格の授与>

第1～3部予選通過者に、獨協大学外国語学部ドイツ語学科の公募制推薦入試の出願資格を授与します。

< 後援団体一覧 (順不同) >

ご支援・ご協力いただきました各団体・各企業の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

■ 文部科学省

■ ドイツ連邦共和国大使館



■ オーストリア大使館/
オーストリア文化フォーラム東京

■ 在日スイス大使館

■ ゲーテ・インスティトゥート東京

■ 在日ドイツ商工会議所

■ 公益財団法人
ドイツ語学文学振興会

■ 埼玉県教育委員会

■ 草加市教育委員会

■ 高等学校ドイツ語教育研究会

■ カシオ計算機株式会社

■ 株式会社朝日出版社

■ 株式会社郁文堂

■ SKW イーストアジア株式会社

■ NHK出版

■ 株式会社三修社

■ ジーストア

■ テレ玉

■ 株式会社同学社

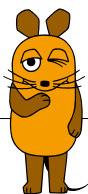
■ 東洋出版株式会社

■ 一般社団法人獨協大学同窓会

■ 株式会社白水社

■ 株式会社モリダイラ楽器

■ ルフトハンザ ドイツ航空



Maus™

オレンジ色の体に茶色の耳、大きな目が愛らしいMaus™(マウス™)は、1971年にドイツの子供向け番組から誕生したキャラクターです。

獨協大学のマスコットとして、本学のプロモーションに一役買ってくれています。

<獨協大学ドイツ語スピーチコンテスト事務局>

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1 TEL:048-946-1715 mail:kouhou@stf.dokkyo.ac.jp